

財団
法人

東洋文庫年報

平成 7 年度

財団法人 東洋文庫

目 次

I 図 書 事 業	1
1. 資料の収集	1
2. 資料の整理	3
3. 資料の利用と複写サービス	4
4. 書庫資料の見学と研修	8
5. 資料の保存整理と複製	9
6. 業務の機械化	10
7. 書庫内資料と書架スペース	11
II 研 究 事 業	13
1. 調 査 研 究	13
i 文部省科学研究費による調査研究	13
ii 一般調査研究	18
iii 特別調査研究	21
iv その他の研究助成金による事業	22
v 研究委員会	30
2. 学 術 図 書 出 版	31
3. 講 演 会	32
4. 研 究 会 (東洋文庫談話会)	34
5. 学 術 情 報 提 供	34
i 研究者養成	34
ii 研究者の交流および便宜供与のサービス	34
iii 研究会等への会場提供サービス	39
iv 研究資料の覆刻・増刷の刊行サービス	40
v 参考情報提供サービス	40
6. 職員の研究業績	41

Ⅲ 業 務 報 告	56
1. 総 務 報 告	56
2. 人 事 報 告	57
Ⅳ 役 職 員 名 簿	59
1. 役 員	59
2. 東洋学連絡委員会委員	61
3. 名 誉 研 究 員	61
4. 職 員	62
5. 臨 時 職 員	65
Ⅴ 財団法人東洋文庫附置	
ユネスコ東アジア文化研究センターの事業	66
1. ユネスコ協力活動	66
2. 学術情報活動－アジア・北アフリカ人文・社会科学関係－	67
3. 重要文献の保存・普及活動	72
4. 研究普及活動	74
5. 業 務 報 告	76
6. 役 職 員 名 簿	79

I 図 書 事 業

1. 資料の収集

(1) 資料購入

資料購入費の支出総額は16,103,611円で、各部門別の内訳は以下の通りである。

	和漢書 _冊	洋書 _冊	計 _冊	マイクロフィルム _(リール)
一般文献資料	108	128	236	0
中央アジア特別研究資料	542	528	1,070	0
東アジア特別研究資料	2,359	1	2,360	0
西アジア特別研究資料	2	283	285	0
東南アジア特別研究資料	18	59	77	0
アジア特定資料	7	0	0	29
チベット特別研究資料	0	37	37	0
近代中国特別研究資料	721	41	762	9
計	3,757	1,077	4,827	38

おもな購入資料としては、以下のものがある。

○新編中華人民共和国地方志叢書	260冊
○明清檔案 第10輯	34冊
○欽定大清会典 康熙朝	20冊
雍正朝	36冊
○清史稿 標点本	48冊
○叢書集成初編 未出書部分	535冊
○旧ソ連参謀本部発行 20万分の1 イラン地勢図	277枚
○Asia Educational Service Reprint Edition	184冊

(2) 資料交換

出版物交換の実績は以下の通りである。

区 分	受 贈			寄 贈		
	和漢書	洋 書	計	国内	国外	計
単行本	1,595	251	1,846	1,955	580	2,535
定期刊行物	3,472	901	4,373	1,823	1,269	3,092
計	5,067冊	1,152冊	6,219冊	3,778冊	1,849冊	5,627冊

受贈資料の主なものとしては次のものがある。

- 成均館大学校大東文化研究院寄贈 韓国経学資料集成 16冊
- 中国社会科学院寄贈 歴史研究所学術論文選集 25冊
- Mr. Roland van den Berg (駐日オランダ大使) 寄贈 中国関係図書 47冊
- 河野六郎氏寄贈 東アジア言語学関係図書 165冊

資料室では交換先機関との協力関係をより緊密にするために、文庫刊行物以外の図書を交換用資料として活用することにし、近代中国研究室の協力を得て、交換用図書リストを作成している。今年度はリストを以下の5機関に送付し、要望のあった図書を寄贈した。

実施時期	交換機関	送付リスト	寄贈数
平成7年7月	The University of Michigan, Asia Library	中文、和書、洋書 47タイトル	0タイトル
平成7年10月	中国国家図書館 (北京図書館)	中文、和書、洋書 37タイトル	2タイトル
平成7年10月	The University of Michigan, Asia Library	中文、和書、雑誌 57タイトル	0タイトル
平成7年10月	国立中央図書館 (中華民国)	中文、和書、洋書 120タイトル	74タイトル
平成7年12月	国立中央図書館 (大韓民国)	中文、和書、洋書、雑誌 128タイトル	16タイトル

(3) 蔵書数

収蔵する蔵書総数は801,737冊で、和漢書461,658冊、洋書316,678冊、複写資料23,401冊である。

2. 資料の整理

(1) 図 書

整理冊数は次の通りである。

和漢図書	1,763 冊
欧米語図書	877 冊
トルコ語図書	572 冊
ペルシア語図書	549 冊
ウイグル語図書	254 冊
カザフ語図書	86 冊
キルギス語図書	17 冊

整理されたおもな図書には次のものがある。

(1) 明清檔案	29 冊
(2) 宮中檔乾隆朝奏摺	20 冊
(3) 大正新脩大藏經索引(欠号補充)	30 冊
(4) Werken uitgegeven door de Linschoten-Vereeniging ; 80-92	13 冊
(5) インド関係洋書リプリント版	152 冊

(2) 目録の刊行

刊行した冊子目録は以下の通りである。

『東洋文庫新着図書目録 43』	83p
『洋書速報 No.877—東洋文庫本特集』	42p
『岩見コレクション目録』	370p

(3) 雑 誌

受入タイトル・冊数は次の通りである。本年度新規受入数は137タイトルで、内訳は和漢92タイトル、洋雑誌45タイトルである。

	タイトル		冊 数	
	和漢	洋	和漢	洋
受贈	815	324	3,372	1,712
購入	204	103	1,296	353
小計	1,019	427	4,668	2,065
計	1,446		6,733	

(4) 新 聞

24種（中文23種、洋1種）

雑誌室では国立国会図書館、アジア経済研究所、東京大学東洋文化研究所、東京外国語大学と協力して南アジアに関する欧文、和文、その他の諸語の逐次刊行物総合目録の編纂を今年度も行い完了した。

外注製本の総量は新聞・雑誌合わせて788冊であった。

資料点数の急増、および資料のページ数増加は書庫スペース不足の原因のみならず、これにともなう資料整理時間の膨張が逐次刊行物の速報性を犠牲にしている点で問題である。そこで雑誌室は、ひとつの方策として、合冊製本の仕様に柔軟性を持たせ、資料の状況に応じて速やかに閲覧に供せる体制を検討中である。

3. 資料の利用と複写サービス

(1) 閲覧サービス

本年度、閲覧証の新たな交付は373名で、内訳は教職員66名（外国人20名）、研究機関関係者18名（外国人9名）、大学院生109名（外国人45名）、大学生165名（外国

人7名)、その他15名であった。

閲覧開館日は231日、利用者数は4,121名、利用資料数は52,616冊で、詳細は下記の通りであった。

近代中国研究委員会収集資料の貸出は延べ641名で1,769冊であった。内訳は中文1,037冊、日文629冊、欧文103冊であった。

東洋文庫職員および関係者の研究室等での資料の利用は延べ773名、6,210冊であった。

開館日数および閲覧者数

	開館日数		閲覧者数		日平均	前年同月比 (△印は減)
	日	累計	人	累計		
平成7年						
4月	19	19	211	211	11 強	△ 3
5	19	38	276	487	15 弱	△ 87
6	21	59	311	798	15 弱	△ 65
7	20	79	333	1,131	17 弱	△ 99
8	22	101	423	1,554	19 強	△ 62
9	19	120	402	1,956	21 強	23
10	20	140	427	2,383	21 強	62
11	18	158	435	2,818	24 強	△ 7
12	18	176	541	3,359	30 強	129
平成8年						
1	17	193	216	3,575	13 強	2
2	19	212	283	3,858	15 弱	△ 89
3	19	231	263	4,121	14 弱	△ 1
計	231	(-231)	4121	(-4,121)		△ 197

閲覧カウンター出納冊数

	和 書		漢 書		洋 書		合 計		日 平均	昨年同月比 (△印は減)
	部数	冊数	部数	冊数	部数	冊数	部数	冊数		
平成7年										
4 月	215	484	421	2,559	126	199	762	3,242	171 弱	190
5	171	473	385	2,056	190	287	746	2,816	148 強	△ 1,749
6	270	506	651	3,617	296	569	1,217	4,692	223 強	457
7	211	331	776	3,544	224	387	1,211	4,262	213 強	△ 1,858
8	284	542	998	5,723	350	876	1,632	7,141	325 弱	△ 358
9	388	1,097	622	3,460	315	740	1,325	5,297	279 弱	281
10	363	827	724	4,403	279	454	1,366	5,684	284 強	810
11	451	820	841	5,075	320	480	1,612	6,375	354 強	980
12	330	492	694	3,982	166	325	1,190	4,799	267 弱	△ 1,069
平成8年										
1	170	553	389	1,837	124	214	683	2,604	153 強	△ 43
2	193	392	550	2,113	195	283	938	2,788	147 弱	△ 1,347
3	245	774	520	1,774	258	368	1,023	2,916	153 強	△ 821
計	3,291	7,291	7,571	40,143	2,843	5,182	13,705	52,616		△ 4,527
比率	14 %		76 %		10 %		100 %			

(2) 複写サービス

国内外の研究者・研究機関の便宜に供するために行ったもので、実績は下記の通りであった。

● マイクロ・フィルム

申込件数	撮影齣数	焼付引伸枚数	ポジ・フィルム
633	87,372	80,253	14,087 コマ

● 電子複写

申込件数	焼付枚数
888	97,729

(3) レファレンス

受付件数は目録室、閲覧室など合わせて 862 件であった。

(4) 資料の貸出

博物館・美術館が主催して行う展覧会への貸出は10件で、詳細は次の通りであった。

展覧会への資料の貸出一覧

	展 覧 会 名	主 催 者	展覧会期間	開 催 場 所	主な資料と数量
1	歌麿芸術の 再発見	浮世絵太田記念 美術館	平成 7.4.15 ～4.26	浮世絵太田 記念美術館	『百千鳥』1冊
2	死と再生の文化	高知県立歴史 民俗資料館	平成 7.7.14 ～9.17	高知県立歴史 民俗資料館	『死者の書』他 1 夾 2 幅
3	世界と日本 一天 正・慶長の使節ー	仙台市博物館	平成 7.10.6 ～11.23	仙台市博物館	『ドチリーナ・キ リシタン』他11冊
4	中国の洋風画	「中国の洋風画」 開催実行委員会・ 町田市立国際版 画美術館	平成 7.10.8 ～11.26	町田市立国際 版画美術館	『出像経解』他 3冊、8点、 1巻、1帖
5	葛飾北斎展ー江 戸のメディア 絵本・版画・ 肉筆画ー	江戸東京 博物館	平成 7.10.10 ～11.12	江戸東京 博物館	『北斎写真画譜』 他 1帖、4冊
6	祭礼・山車・風流 ー近世都市祭礼 の文化史	四日市 市立博物館	平成 7.10.28 ～12.3	四日市市立 博物館	『尾張年中行事 絵抄』8冊
7	ロシア国立図書 館所蔵地図展ー 18・19世紀ー	国立国会 図書館	平成 7.11.15 ～11.30	国立国会 図書館	『Noord en Oost Tarturyen』1冊
8	世界図遊覧ー坤 輿万国全図と 東アジア	土浦市立 博物館	平成 8.1.27 ～3.10	土浦市立 博物館	『坤輿萬国全図』 他 6軸,1枚
9	日本出版文化史 展ー百万塔陀 羅尼からマルメ デアへー	日本書籍出版協 会・京都文化博 物館・朝日新聞 社	平成 8.2.3 ～2.25	京都文化 博物館	『百万塔』他 1基6冊
10	豪商茶屋と 徳川氏	岡崎市	平成 8.3.30 ～5.12	三河武士の やかた家康館	『尾張年中行事 略絵抄』2冊

4. 書庫資料の見学と研修

申請は18件あり、269名に便宜を計った。その詳細は次の通りである。

	実施日	申請者	参加者	人数(名)	主な内容
	平成7年				
1	5月19日	佐藤次高	東京大学学生	21	書庫内資料見学
2	7月24日	臼井佐知子	大東文化大学 教職員・学生	15	書庫内資料見学
3	7月26日	石川重雄	立正大学 教職員・学生	14	書庫内資料見学
4	7月28日	高田幸男	明治大学 教職員・学生	11	書庫内資料見学
5	8月28日	東京私学教育 研究所、学校図書 館研究所	東京私立中学 高等学校教職員	75	書庫内資料見学
6	9月8日	国学院大学 中国文学研究室	国学院大学 教職員、院生	10	書庫内資料、 資料保存活動見学
7	9月29日	国際交流基金	サ・ルハルト・ルジ・ セルシユー（モンゴル国立 中央図書館長）他	2	書庫内資料、 資料保存活動見学
8	10月24日	東京大学東洋 文化研究所附属 東洋学文献センター	漢籍整理長期 研修生	12	「東洋文庫について」の講義と資料 見学
9	10月25日	小石川高等学校 校内研修会	小石川高等学校 教職員	10	書庫内資料見学
10	10月26日	高田幸男	明治大学教職員 ・学生	30	書庫内資料見学
11	12月6日	国際交流基金 日本語国際センター	平成7年度海外司書 日本語研修生	9	書庫内資料見学
12	12月13日	私立大学図書館 協会東地区部会 東アジア資料 研究分科会	私立大学図書館協会 東地区部会東アジア 資料研究分科会員	15	書庫内資料見学

13	12月21日	酒井憲二	調布学園女子短期 大学教職員・学生	5	書庫内資料見学
	平成8年				
14	1月26日	味岡 徹	聖心女子大学 教職員・学生	9	書庫内資料見学
15	2月14日	私立大学図書館 協会東地区部会 東アジア資料 研究分科会	私立大学図書館協会 東地区部会東アジア 資料研究分科会員	11	資料保存活動と 修復技術
16	2月22日	学術情報センター 国際交流係	ソウル大学校 図書館長・職員	3	書庫内資料、 資料保存活動見学
17	3月8日	交流協会日台交流 センター	台湾大学教授他 研究者	9	書庫内資料見学
18	3月13日	落合守和	東京都立大学 教職員・学生	8	書庫内資料見学

5. 資料の保存整理と複製

図書部内に設置した「資料保存を考える会」が中心となって計画し、原資料の保存整理と劣化資料のマイクロフィルムなど他の媒体への変換を行った。

作業項目と内容は下記の通りである。

(1) 漢籍地方志

継続する作業で本年度は分類記号Ⅱ-11-B-i・j（安徽・江西）を対象。

裏打ち5,196葉、綴じ直し149冊、帙作製9帙。

(2) 貴重洋書（Old Book）

継続する作業で本年度は分類記号O-11・12Aを対象。

清掃、クリーニング、オイリング、PH測定112冊、保存箱作製112個、補修66冊。本年度の作業をもって全体の25%を完了。PH測定の計測結果の平均はPH4.6で、脱酸処理の必要なものの存在が明らかになった。

(3) その他の冊子資料

近代中国研究委員会収集資料及び目録室資料を対象。

本製本 6 冊、再製本と簡易製本 190 冊、保存箱作製 15 個、帙作製 1 帙、裏打ちと補修 809 葉、清掃とクリーニング 37 冊。

(4) 紙焼き資料

主として北京善本資料を対象。

紙折り 36,160 枚、簡易製本 737 冊、仮帙作製 115 帙。

(5) 複文庫単行本

全資料を対象。

劣化・破損調査と無帙資料の処置仕様。

(6) 資料の撮影 37,957 コマ

漢籍貴重書（宋版・元版）、劣化中国語雑誌、チベット語『死者の書』、エッチングを対象。

チベット語『死者の書』、エッチングはカラー撮影。なお、エッチングのカラー撮影は継続事業であったが本年度完了。

(7) 活用フィルム作成のためのポジフィルムの作製 195 リール

撮影した漢籍貴重書（宋版・元版）、劣化中国語雑誌、及び寄贈フィルムを行う。

(8) 資料の複製と他機関取り寄せフィルムからのプリント、36,204 枚

ベラム装アラビア語文書、北京善本資料フィルムを主に対象。

6. 業務の機械化

洋書目録室では、平成6年度に導入されたマッキントッシュ LC 575により日常業務の機械化を進めた。新規受入図書の書誌事項等はコンピュータに入力され、登録原簿の記入、カード作成が簡便化された。また、遡及入力として中央アジア関係洋書（ラテン文字図書のみ）のデータ入力を行った。

資料室では平成5年度より交換寄贈関係データ、購入予算をコンピュータで管理し

ているが、平成7年度は新たに購入図書を一括管理するファイルを作成、実用化した。このデータは和漢書目録室での登録原簿記入にも活用されている。

雑誌室では平成6年度に引き続いて業務データを入力している。入力状況としては、タイトル・所蔵巻号など書誌的データが累積約1万2,000件（和漢雑誌は全タイトル）、領収日・入手経路など事務的データが累積5万4,000件強（平成5年度以降受入の全巻号）を入力した。データは統計資料の作成や外注製本の管理に活用しているほか、簡単なレファレンス等にも対応している。

7. 書庫内資料と書架スペース

（1）書庫内資料の排架一覧とおもな調整箇所

階	1号棟	調整箇所	2号棟	調整箇所
6	朝鮮本、安南本、満洲本、蒙古本、和書（XⅢ～XⅤⅡ・大型）	朝鮮本	/	
5	OldBooks、PB、MS、漢籍稀観書、岩崎文庫、銅版画、古地図、梅原考古資料、辻文庫			
4	洋書（Ⅰ～ⅠⅩ・大型）、第Ⅱモリソン文庫、ペラルデ文庫	洋書（Ⅲの一部、Ⅳ～ⅤⅠ） 第Ⅱモリソン文庫、ペラルデ文庫	アジア諸語史料	アラビア語文献を除くアジア諸語資料
3	漢籍（経部・子部・集部・叢書・大型）	叢書、大型	洋書（X～XⅤⅡ・XⅠⅩ）、モリソンパンフレット、ロシア語別置資料、アジア諸語資料	洋書（X、XⅠ） モリソンパンフレット
2	漢籍（史部）	編年類・伝記・総録	近代中国研究委員会収集資料	
1	逐次刊行物（日・中・朝・新聞）	逐次刊行物（日・中・朝・新聞）	逐次刊行物（欧文）	

資料の増加に伴う書庫スペースの不足は、いさおい計画的な書架調整区分を増加させている。2号棟3階のアジア諸語資料は、所定の2号棟4階に収められず一部を排架システムを崩して移動した。1号棟1階の新聞もそのような状態にあり、2号棟1階の逐次刊行物（欧文）も次年度は、それを考えなくてはならない状態である。

（2）書架スペースの不足

書架スペースは昭和58年の新書庫建設以来改善されず、一方、研究出版活動はめざましく資料の増加には著しいものがある。ふたつの書庫は満杯に近く、資料の適正な排架が出来ない状態である。

1号棟1階の書架（新聞）は、満杯になり機能を停止した。1号棟2階の書架（逐次刊行物—日本語・中国語・朝鮮語—）は副本を排架から除くことと、預かっていた三菱経済研究所資料を引き取ってもらうことによって一定のスペースを得た。しかし、資料の増加に対応できる期間は5年に満たないものである。2号棟1階の書架（欧文逐次刊行物）は平成8年度から排架出来なくなり、2号棟4階の書架（アジア諸言語資料）は分類排架システムを崩し資料の一部を2号棟3階に移すことによって一定期間の対応の可能性を得た。1号棟2階の書架（漢籍—史部—）、2号棟2階の書架（近代中国研究委員会収集資料）も近い将来満杯になる状況であり、同一書庫内において変則な資料排架をすることによって増加に対応している。

本年度調査した1号棟2階の書架（漢籍—史部—）、2号棟1階の書架（欧文逐次刊行物）、2号棟4階の書架（アジア諸言語資料）の排架率はそれぞれ94.4%、95.5%、94.5%で、排架率86%で満杯とする排架率をはるかに超えている。

Ⅱ 研 究 事 業

1. 調 査 研 究

調査研究は、文部省の国庫補助金及び科学研究費補助金の事業費によるものと、民間学術研究助成事業費並びに東洋文庫学術情報提供事業費などによるものとにわかれる。

i. 文部省科学研究費による調査研究

総合研究 (A)

①【課 題】「ペルシア語古写本資料精査によるモンゴル帝国の諸王家に関する総合的研究」

【期 間】 平成7年度(3ヶ年間継続事業・最終年度)

【目 的】 ①モンゴル帝国研究に関するペルシア語史料中にはモンゴル政権内部の者が著わした秀れた同時代史料が数多く存在するが、モンゴル政権の核心部分に関する記事は従来ほとんど看過されてきた。本研究はペルシア語写本史料を利用し、一見「西アジア」、「イスラム」の要素が濃厚なペルシア語史料の表面的字面の奥深くに潜む遊牧国家特有の事象を抉り出し、モンゴル帝国の政権の構造が、匈奴以来一連の遊牧部族連合国家のそれと全く同一のものであることを実証すると共に、ペルシア語史料を典拠とする爾余の遊牧国家史研究に新たな道を開くことを目的とするものである。

②ペルシア語史料の表面的な字面の奥深くに潜む遊牧国家固有の事象を抉り出し、モンゴル政権の本質を究明しようとする試みは、従来の欧米・日本の諸先学の研究を根底から覆す全くオリジナルな研究である。また、古写本史料中に挿入されているミニアチュール(細密画)と本文の記事とを比較対照して新たな知見を得ようとする試みも世界ではじめてのものである。こうした研究方法により、現在のモンゴル帝国史研究の世界最高水準の成果が期待でき、これを起点とするさらなる進展が予想される。

③本研究の成果は、匈奴、突厥、回鶻等の遊牧国家史研究において秀れた成果を挙げてきた日本学界の水準の高さを世界に問いうる出色の内容となろう。

【研究実績概要】

【研究実績概要】

国家存亡の危機に即位したイル汗国のガザン汗は麾下のモンゴル諸部族との結びつきを強化し、強固な政権を確立することを目指し、『モンゴル史』(Tārikh-i Ghāzāni)の編纂を厳命した。『Tārikh-i Ghāzāni』の核心部分をなす「部族誌」の記事の多くはガザン汗の口述に拠っており、政権確立を希求するガザン汗の執念が集約されている。『Tārikh-i Ghāzāni』はガザン汗を継いだ弟オルジュイト汗時代に完成し、『集史』「モンゴル史」として改変された。この時、「部族誌」中の多くの記事が削減されたが、『集史』附篇「モンゴル系譜」中に新たな情報がつけ加えられた。

『Tārikh-i Ghāzāni』の原写本は失われ、現在手にすることができるのは総て『集史』「モンゴル史」の形の写本であるが、版本により増補、書き替え、削除、筆写ミスによる脱落等の違いがあり、その内容は極めて多様である。これらの写本中、イル汗国時代に筆写されたもの、あるいはイル汗国時代に筆写されたと考えられるまとまった形の写本は、イスタンブル写本(トプカプ宮殿図書館写本 Revan köçkü 1518)、パリ写本(パリ国立図書館写本 Supplément Pensaw 1113)、テヘラン写本(イラン議会図書館写本 2294)、ロンドン写本(大英図書館写本 Add.16688)のほぼ4つに限られる。

これらの写本中、イスタンブル写本は他写本に比べて言いまわしが遙かに簡潔、直截であるが、「部族誌」その他核心部分の記事が詳細で、ガザン汗の意志が強く反映されている。この事実から、イスタンブル写本は、『集史』「モンゴル史」として改変される以前の『Tārikh-i Ghāzāni』原典の記事をほぼそのまま、後から成立した『集史』「モンゴル史」の章立て、枠組で記した写本と理解され、モンゴル帝国史研究にあたっては、主軸に据えられるべき写本であることが確認された。

【研究代表者】

志茂碩敏 研究員

【分担者】 統 轄：志茂碩敏

ミニアチュール班・漢文史料対照班；

本田實信(モンゴル帝国・西方王家)、

杉山正明(モンゴル帝国・東方王家)

王室世系表・部族表作成班；

小山皓一郎(イル汗国)、北川誠一(チャガタイ汗国・東王家)、

井谷鋼造(キプチャク汗国・西王家)、加藤和秀(チャガタイ汗国)、

松田孝一(元朝)

②【課題】「戦前期中国実態調査資料の総合的研究」

【期間】 平成7年度（3ヶ年継続内定・初年度）

【目的】 明治以降、日本の政府および民間の機関が中国で行った各種の実態調査の成果をまとめた調査資料は、旧中国社会の実態究明に有用な資料として利用されるようになってきているが、その豊富な内容に対応した多角的かつ有効な利用状況にあるとは言い難い。本研究は、資料の有効活用のために必要な、研究者による解題を付した総合目録の作成を目指す一段階として、中国主要部（華北、華中、華南）に関する調査資料について、未確認資料の発掘に努めながら、各資料について、その内容、資料の性格と利用価値などを明らかにした解題を作成し、併せてデータベース化の基礎を作ろうとするものである。

【研究実績概要】

1. 資料調査

- (1) 山口大学東亜経済研究所において合同調査を行った。調査に先立ち同研究所の既刊の蔵書目録と東洋文庫所蔵の資料との照合を行い、さらにアジア経済研究所編刊『旧植民地関係機関刊行物総合目録』をも照合しつつ、他機関と重複しない或いは重複の少ない資料について、書誌的事項と資料の内容（対象とする分野や地域、資料の性格など）を記録にとった。
- (2) 小樽商科大学、神戸大学経済経営研究所および京都大学本部・経済学部における資料の状況について、一部研究分担者による調査が行われ、今後の合同調査の要不要の参考とすることとした。
- (3) その他、大学図書館などの既刊の関連目録をチェックしている。

2. 資料の研究

上期の調査で得た記録および東洋文庫所蔵の資料について、メンバーが従来より利用してきた既知の資料も併せて、中国社会の研究に有用であるか否かを検討した。その中で得た新たな知見と課題は以下の2点である。

- (1) 調査資料と称される資料は3種類に分けられる。すなわち、実地調査それ自体の記録、実地調査の結果と文献調査とを総合したもの、文献のみによる調査のもの、である。本研究が対象として取り上げるのは前二者となるが、第二種の資料は実地調査と文献調査の比重が様々であり、取り上げ方は容易ではない。
- (2) 資料の性格を判断する要素の一つとして調査者（機関）についての知識が必要とされるが、満鉄、台湾総督府など大規模な関連機関を除いては、その事業や性格などが十分にわかっていないことが明らかになった。

【研究代表者】 本庄比佐子研究員

【分担者】 華北の政治・経済・社会関係資料の研究班；

内山雅生（統轄）、座間紘一、吉田滋一、西村成雄、川井伸一、三谷 孝
華中の政治・経済・社会関係資料の研究班；

高橋孝助、曾田三郎、夏井春喜、足立啓二、坂野良吉、久保 亨
華南の政治・経済・社会関係資料の研究班；

本庄比佐子（統轄）、草野 靖、奥村 哲、今井 駿

一般研究（C）

【課 題】「空思想の哲学的解明にむけての基礎研究」

【個人研究：福田洋一研究員】

【期 間】平成7年度（3ヶ年間継続事業・2年度目）

【目 的】 従来のインド仏教研究では、その研究対象を現代とは関係のない過去の出来事として扱ってきたが、仏教の中核をなす〈空〉についての思想は、単に異国の過去の一思想として扱われるべきものではなく、時代を越えて思索されるべき哲学として解明する価値のある思想である。本研究では、この空思想を哲学的に解明するために必要な基礎作業の遂行を課題とする。従来この種の研究はあまり高い評価を受けてこなかったように思われるが、その理由として考えられるのは、まず、基礎的な作業を抜きにした恣意的な読み込みに立脚した研究であったこと、および、西洋哲学的な表現の衣装を纏うことに急で、思想自体の深い理解に欠けていたこと、そして思想を再構築する際に従来の西洋哲学的概念構造を持ち込んでいることなどが指摘できる。中観思想のように既存の概念では把握しがたい哲学を明瞭な日本語によって解明するためには、その原典で扱われる概念を、関係する文献中のコンテキストにおいて正確に把握し、さらに、それを論理的な言葉で再構成する必要がある。そのためには膨大な文献の通読が必要であるが、幸いチベット語文献については、Asian Classic Input Projectとしてコンピュータ入力が始まっているので、それを元に機械処理を行ない、関連箇所の検索や索引の作成が容易になってきた。そこで、本申請者はこの研究を、準備段階とそれを用いた次の段階との二段階で計画している。まず準備段階として、コンピュータが提出してくれる豊富な情報・用例に基づいて、重要な概念の意味をコンテキストの中で正確に把握する。第二段階として、その概念を申請者が続けてきた仏教倫理学の知識によって哲学的に再構築する。

【研究実績概要】

平成7年度は、前年度整備した機械環境をもとに、テキスト（ツォンカパの legs bshad snying po）の電子テキストを作り、読解を行った。このテキストは唯識思想と中観思想の根本的な相違点をはじめて明確にしたものとして重要な文献である。読解に際しては、チベット人学僧ゲシェー・テンパゲルシェン師に不明な点を確認しながら作業を続けた。今年度は全体の半分ほどの分量を終えることができた。また、中観思想を解明するための基礎としての論理学の講読会を主催し、ツォンカパの論理学定義集を講読した。この講読会では全体の三分の二ほどを終えた。これは平成8年度も継続して続ける予定である。

その他、ダライラマ14世による仏教哲学の講義を講読した。このテキストも唯識および中観内部の学派の存在論上の差異について詳しく、またきわめて整理された記述であるので、現在の学僧の理解を知ることができた。この成果は平成8年度中に出版される予定である。

機械上では、チベット語およびサンスクリット語のソートができるユーティリティを開発し、術語語彙集を作成する準備を進めた。これはサンスクリット語、チベット語、漢訳、英訳の対照語彙集を作成するものである。本研究課題の終了時にデータおよびユーティリティを公開する予定である。テキストの機械処理が進む中、特にチベット語についての転写法に、統一的で汎用性のある表記法（拡張ワイリー方式）を国際チベット学会において提唱した。

研究成果公開促進費（データベース等）

【名 称】「東洋学総合情報システム」（A Comprehensive Information System
of the Asian Studies）

〔東洋文庫電算化委員会委員長：北村 甫〕

【期 間】平成7年度（平成6年度新規採用、単年度ごと申請）

【分 野】「アジアの諸言語で書かれた文献およびその研究文献」

【目 的】本データベースは、アジア諸国語によって書かれた文献の所蔵目録、国内所在目録、解題目録、研究文献目録、古典の文献のテキストデータベースなどを含んでいる。これらはいずれも学術研究上、必須の基礎資料であることは論をまたない。これらを、特定のコンピュータに限定されないフォーマットで作成し、一般の研究者に情報公開をすることは、日本の東洋学研究の発展に大いに寄与するであろう。

現在、東洋学研究においてもコンピュータを利用した研究は徐々に増えつつあるが、現状では個々の研究者、あるいは特定の研究機関がそれぞれ固有の方法で入力しているために、データの互換性・統一性・公共性を確保されていない。また、コンピュータ上でアジア諸言語を直接扱う方法は、殆ど手つかずの状態であり、それについての情報を普及させる必要がある。そこで本データベースでは、日本の各研究機関や当該分野の研究者との連絡をとりつつ、特定機器に依存せず、しかも複数の言語を同時に統一的に処理するデータ処理方法を確立し、一般の利用者に広く情報を還元することを目標とする。

【事業実績概要】

アジア諸言語で書かれた文献、ならびにアジアに関する諸文献について、できる限りオリジナルの文字を使用したデータベース作成を目指し、アラビア語、ペルシア語、チベット語に関しては特殊文字を使用したデータベースを作成した。ウイグル語に関しては、ウイグル文字に移行することを考慮し、容易に変換できるような入力方式を採用した。トルコ語、アジアに関する欧文書籍に関しても、特殊符号を再現できるフォントを作成し入力をしている。特にチベット関係については単に目録だけではなく、テキストや科文のデータベースも作成した。平成8年度初めに公開可能なものをすべて収録したCD-ROMを作成し、またインターネットのFTPでファイルを公開する予定である。

ii 一般調査研究

本年度は、特に、南方史研究委員会、古代史研究委員会を中心に調査研究を行った。(研究部12研究委員会の各委員会の中の研究課題の後に付された◎印は、文部省国庫補助金事業費使用担当として主に重点的に行った事業を表わす。また、研究委員会の後に※印を付した委員会は、次の「iii. 特別調査研究」の事業を別途に行っていることを表わす。)

東亜考古学研究委員会

- ① 故梅原末治評議員(京都大学名誉教授)の寄贈にかかる東亜考古学資料(写真、実測図、拓本、野帖等)の整理とその目録の作成。(前年度の継続)

① 中国古代都市研究会の開催。(前年度の継続)

平成7年3月9日(木) 中国山東大学講師 許 宏

「曲阜の魯国故城をめぐる諸問題」

4月28日(金) 宇都木 章「春秋時代魯の諸邑について」

11月22日(水) 五井 直弘「春秋時代の大夫—秦と東方諸国—」

12月13日(水) 徐 天進「山西省曲村の発掘」

1月31日(水) 平勢 隆郎「戦国称王時の式典」

② 東洋文庫所蔵中国画像名、造像名、墓碑銘拓本の整理研究。

③ 『東洋文庫蔵越南本書目』の作成^⑦

唐代史(敦煌文献)研究委員会

① 国内外に現存する西域出土古文書の所在調査と、マイクロフィルムによる収集・整理。

② 内外の諸機関・研究者に対する既収集敦煌文献及びそれらの研究成果の公開、および情報の提供。

③ 敦煌・吐魯番等出土文書関係論著の収集及びそれらに引用された出土文書番号の採録カード(目録補遺)の補充。

④ 内陸アジア出土古文献研究会の開催。

宋代史研究委員会

① 『宋史選舉志訳註(二)』の刊行。(刊行済)

② 『宋史選舉志訳註(三)』の作成。

③ 『宋史食貨志訳註(三)(四)(五)及び総索引』の作成。

④ 『宋会要輯稿』食貨之部の要項(地名、一般)及び語彙索引の作成。

⑤ 宋代研究文献目録及び速報の作成。

明代史研究委員会

① 『万曆野獲編』(元明史料筆記叢刊)を主として、明代社会経済に関する文献の講読・研究。(隔週、研究会の開催)

② 『千頃堂書目著者名索引』の刊行。(刊行済)

清代史研究委員会

① 「東洋文庫所蔵満文檔案」の整理・研究。

② 『天聰七年満文檔冊』の講読研究会の開催。(隔週、研究会の開催)

③ 『満洲語ユニオンカタログ』の作成。

- ③『満洲語ユニオンカタログ』の作成。

近代中国研究委員会*

- ① 近現代中国関係資料の書誌的研究。
- ②『東洋文庫（別置）近代中国関係欧文図書分類目録（付索引）』の作成。
- ③ 日中現代史研究会の開催。
 - 6月 3日（土）黄 福慶「1932年の関東軍と満鉄経済調査会」
 - 7月15日（土）岸田 五郎「西安事変後の二・二事件について」
 - 9月16日（土）林 正和「日露戦争時期における在清日本公使館の情報収集の事例―「呉樾献身意見書」について」
 - 11月 4日（土）臼井 勝美「“満州国”による中国海関接收問題」
 - 12月22日（金）中村 義「アジア主義実業家論―白岩竜平をめぐる」
 - 3月16日（土）土田 哲夫「日中戦争とアメリカ―戦後50年、米国徘徊記」
- ④戦前期中国実態調査資料の総合的研究
同研究会の開催
 - 11月18日（土）坂野 正高「中国政治をめぐる情報の質と政策決定との間―田中義一・蒋介石会談の前後を中心に―」

日本研究委員会

- ①『東洋文庫所蔵岩崎文庫貴重書誌解題（Ⅱ）』の作成。
- ② 日本関係洋書解題目録の作成。

朝鮮研究委員会

- ① 漢字の朝鮮字音、中国音韻学の研究・調査。（前年度の継続）
- ② 李氏朝鮮の財政・民政関係史及び外交文書資料の講読・研究。

中央アジア・イスラム研究委員会

- ①『イスラム革命関係小冊子類解題目録』の作成。
- ② イスラム国家論・都市論の月例研究会の開催。
 - 5月20日（土）伊藤 隆郎
「14世紀末～16世紀初頭エジプトの大カーディー」
 - 6月17日（土）堀井 優「カイロ留学帰国報告」
大河原知樹「ダマスカス留学帰国報告」
 - 7月15日（土）近藤 真美「ファトワーを通して見る14世紀のシリア」
 - 11月18日（土）佐藤健太郎「8世紀アンダルスとイフリキーヤにおけるアラブ初期移住者：フィフル家を中心に」

2月17日(土) 益子 圭一「ペルシア文学と霊長像」

- ③ イスラム社会の構造の研究。
- ④ 中央アジア・トルコ諸民族史の研究。
- ⑤ 中東イスラム世界における政治権力と宗教：総合研究。(以上、前年度の継続)
- ⑥ トルコ日本両国の近代化の比較研究。

チベット研究委員会*

- ① 東洋文庫所蔵チベット語文献の整理・研究。
- ② チベット学に関する研究会の開催。

南方史研究委員会

- ① 東南アジア・南アジア関係歴史言語資料の調査・収集・研究。
- ② ヴェトナム関係、タイ関係研究資料の整理、目録の作成。*
- ③ 辻文庫目録(3)及び荻原文庫目録のIndexの作成。*

iii 特別調査研究

チベット特別調査研究(チベット研究委員会)

【目的】チベット人との協同によるチベットの歴史・言語・宗教・社会の総合的研究

【研究課題】チベット語文語辞典の編纂

【事業内容】

1) チベット語文語辞典編纂のための調査・研究

チベット研究委員会招聘のチベット人研究者(ゲルク派・デブン寺ゴマン学
堂長 Kenpo of Gomang Datsang College) Tempa Gyaltzen 氏の協力のもとに下記
の作業を進めた。

- ① 東洋文庫所蔵チベット撰述蔵外文献解題目録編纂のカードを点検し、
目録データベースの作成を継続した。
- ② 現代チベット語について口語資料を収集し、記述的研究を進めた。
- ③ チベットの伝統的仏教学の基礎教程について数冊の教科書を選び、実際
にラマから直接の指導を継受した。
- ④ 『スタイン蒐集チベット語文献目録』注記篇の編集を進めた。
- ⑤ 『Materials for the Tibetan-Mongolian Dictionaries』Vol.4の調査・編集作業
を進めた。

2) チベット文献の収集・整理

2) チベット文献の収集・整理

区 分	洋 書
数 量	37冊

3) 研究成果の刊行

- ① 『チベット仏教基本文献』 第1巻 B5判 1冊 (刊行済)
 ② 『チベット特別調査研究年次報告』 A5判 1冊 (刊行済)

近代中国特別調査研究

【目 的】 近・現代中国研究関係資料の収集・整理とこれらの資料の書誌的研究

【研究課題】 近・現代中国研究関係資料の書誌的研究

【事業内容】

- 1) 共同利用研究
 2) 情報交換および参考業務 (近代中国研究事務室において常時遂行)
 3) 図書資料の収集・整理

区 分	和漢書	洋 書	マイクロ・フィルム
数 量	721冊	41冊	9リール

4) 研究成果の刊行

- ① 『近代中国研究彙報』 第18号 A5判 1冊 (刊行済)

iv その他の研究助成金による事業

三菱財団人文科学研究助成金特別事業

①【課 題】「中東イスラム世界における政治権力と宗教：総合研究」

(中央アジア・イスラム研究委員会)

【期 間】 平成4年10月～平成7年9月 (3ヶ年間)

【目 的】 この研究は、中東イスラム世界の内部構造を歴史的なパースペクティブのもとで、総合的に検討しようとする試みである。日本における中東イスラム史研究は、近年急速に進展しつつあるが、今後はより一層機能的な共同研究

が必要となるであろう。本研究では、これまで東洋文庫中央アジア・イスラム研究室が主催してきた「イスラム国家論研究会」における研究成果をふまえ、同研究室の研究員が中心となって、新しい共同研究を展開した。われわれは研究にあたって、(1) 権力構造の特質、(2) 都市からの展望、(3) イスラムと近代、以上3つのサブテーマを設定したが、これは第一に、共通テーマについて3つの異なった方法論でせまること、第二に、各サブテーマについて異なった時代と地域(アラブ・イラン・トルコ・中央アジア地域)の事例を相互に比較検討することを意図したからである。本研究は、このような作業をととして、われわれの世界史認識や異文化理解の深化に寄与するのみならず、「イスラム原理主義」の台頭や民族紛争の激化など、現代の中東問題を的確に理解するための視座を見いだすことを目的とした。

【研究終了報告】

(1) 共同研究

これまでのサブテーマ(2)について共同研究を行ってきた小松久男と三浦徹は、各自の専門領域である中央アジアと東アラブ地域のイスラム都市にかんする、欧米・ロシア・ソ連・中東諸国・日本におけるこれまでの研究史を検討し、今後の課題と展望を提示した英文の論文を下記の研究書(Islamic Urban Studies)の中で発表した。これは新しい都市論を構築するための基礎作業であり、これを機会に海外の研究者との議論を深めていくことができれば幸いである。

(2) 個別研究

個別研究としては、サブテーマ(1)にかんする、八尾師誠「地方誌・史に見るイランの中央・地方関係」『イランの中央と地方：研究動向・資料紹介・文献目録』アジア経済研究所、1995年、1-64頁、サブテーマ(2)・(3)にかかわる小松久男「二つの都市のタジク人：中央アジアの民族間関係」『スラブの民族』弘文堂、1995年、250-274頁などの成果をえたが、今年度は最終年度にあたるため、むしろ3つのサブテーマを横断する、より総合的な研究をめざした結果、次のような成果を発表することができた。佐藤次高「聖者イブラーヒーム伝説：アラブの心を読む」『へるめす』54号、1995年、12-24頁；清水宏祐「イスラーム史を読み直す」『文明としてのイスラーム』栄光教育文化研究所、1994年、84-108頁；同「モンゴルと十字軍」『世界史とは何か』東京大学出版会、1995年、19-46頁；永田雄三「バルカンにおけるイスラームの拡大」『世界に広がるイスラーム』栄光教育文化研究所、1995年、347-382頁；三浦徹「市場社会とイスラム：イスラム史を見直す」『イスラーム世界の解説』神奈川大学評論叢書、お茶の水書房、1995年、163-196頁；同「ソシアビリテ論とネットワーク」『結びあうかたち：ソシアビリテ論の射程』山川

出版社、1995年；小松久男「1905年前後の世界：ロシア・ムスリムの視点から」『強者の論理：帝国主義の時代』東京大学出版会、1995年、117-146頁。

(3) 国外における成果の発表

海外の研究者にたいして本研究の成果を伝え、将来の国際的な共同研究のネットワークを構築していくこともわれわれの課題の一つであり、本年度は次の成果をあげた。

Miura, T., "Mashriq", M. Haneda & T. Miura ed., *Islamic Urban Studies : Historical Review and Perspectives*, Kegan Paul International, London-New York, 1994, pp.83-184.

Komatsu, H., "Central Asia", M. Haneda & T. Miura ed., *Islamic Urban Studies : Historical Review and Perspectives*, Kegan Paul International, London-New York, 1994, pp.281-328.

Miura, T., "The Salhiya Quarter in the Suburbs of Damascus : Its Formation, Structure, and Transformation in the Ayyubid and Mamluk Periods", *Bulleten d'Etudes Orientales*, Vol. 47, 1995 (in Print) , Damascus.

Miura, T., "Islamic and Middle Eastern Studies in Japan : Using Bibliography of the Islamic and Middle Eastern Studies in Japan 1868-1988 to Identify Research Trends", *Le Monde Arabe dans la Recherche Scientifique*, 5, 1995 (In Print) , Paris.

(4) 研究会・講演会の開催

今年度も、下記のとおり「イスラム国家論研究会」を開催し、共同研究の充実と情報の交換をはかった。

平野豊（明治大学大学院）「16世紀サファヴィー朝の首都カズヴィーン
の文化状況」（1994年10月15日）

栗山康之（中央大学大学院）「イエメン・ラスール朝初期政治史と
ウラマー」（11月19日）

高野大輔（東京大学大学院）「ネストリウス派のカトリコス」（12月17日）

渡部良子（東京大学大学院）「イルハン朝のタージーク官僚」
（1995年2月25日）

伊藤隆郎（京都大学大学院）「14世紀末～16世紀初頭
エジプトの大カーディー」（5月20日）

近藤真美（京都大学大学院）「ファトワーを通して見る14世紀のシリア」
（7月15日）

(5) 研究資料の収集

今年度収集した主な資料は、カザフスタンを中心とした中央アジア諸国の人文・社会系の出版物と帝政ロシア統治下の中央アジアで刊行されたトルコ語雑誌資料（マイクロフィルムで44リール）である。これらについては、共

同研究者と研究補助員がデータベース化を含む整理を行った。また、共同研究者の各メンバーは、必要に応じて京都大学、民族学博物館、東洋文庫などで史料の調査・収集および研究発表にあたった。

(6) 自己評価と今後の課題

われわれが設定した課題、すなわち中東イスラム世界の内部構造を歴史的なパースペクティブのもとで総合的に検討するという作業は、もとより3年間の共同研究で完結するものではない。しかし、この間の研究活動によって、とりわけサブテーマの(2)にかかわる都市社会の構造分析についてはたしかな成果をおさめ、また内外の研究ネットワークの構築でもかなりの前進を果たすことができたと考えている。今後はこれまでに収集した資料の分析・検討を継続するとともに、新たな視角と方法とに基いた総合研究を組織することが必要であろう。(完)

【代表者】 小松久男 研究員

【分担者】 永田雄三、佐藤次高、清水宏祐、八尾師誠、三浦徹の各研究員

②【課題】「満洲語文献の総合的研究」(清代史<満蒙>研究委員会)

【期間】 平成6年10月～平成9年9月(3ヶ年間)

【目的】 清朝の歴史を考察する際、その第一公用語であった満洲語文献を利用した研究が不可欠な状態となっている。これら満洲語文献は、現在、中国、台湾、日本のほか世界各地に所蔵されており、すでにいくつかの地域で、個別に所蔵目録が作成されている。そのうち「档案(公文書)」資料については、すでに今回の研究グループは、平成3・4年度の文部省科学研究費補助金(総合研究A、研究代表者：神田信夫)を得て、その概要を報告している。また、中国、台湾における満洲語文献の状況については、各研究者がすでに十分な調査・研究とそれら資料保管機関との強い関係を有している。しかしながら、世界的な満洲語文献の統一的把握といった問題については、いまだ充分になされているとはいえず、各研究者が重複して調査を実施しているケースもみられる。ここに世界的な視野からみて、各地に所蔵される満洲語文献を総合的に把握し、データベース化が急務となっている。この作業のまず第一歩として、世界中の満洲語の刊本(木版印刷本)の実態調査(書名、作者、刊行年月、保存機関、保存状況等)を実施し、ユニオンカタログを作成して、世界中の満洲語文献研究者ひいては清朝史研究者の要求に応えたい。

【研究計画・中間経過概要】

世界の満文文献は、中国、台湾を中心に日本、ヨーロッパ(ロシアを含む)、アメリカ合衆国等に存在する。ただ、満文文献のうち文書資料について

は、中国の北京にある中国第一歴史檔案（文書）館だけでも約400万件以上保存されているといわれ、その全貌を把握することはきわめて困難である。それ故、本研究では数量上の問題から、満洲語諸文献のうち主として清朝時代に出版された「刊本」（木版本）の調査・研究を実施することにした（一部「鈔本」〈抄写本〉を含む）。また海外、とくに中国、台湾における実態調査は、基本的にすでに採択が内定している文部省科学研究費補助金（国際共同研究）によって実施し、国内における実態調査と国際共同研究では計上されていない「欧米での補完調査、そしてその両者の成果の総合的研究および整理を本研究によって行った。

これら各研究者が集積したデータは、年度3回予定している研究会（合宿）において討議し、各文献の異同を確認しつつ総合的把握に努めている。

○ 平成6年度は、日本各地、アメリカ合衆国ならびに中国の満洲語文献保存機関において調査・研究を実施し、とくに「刊本（木版本）」を中心としてデータを集積した。このデータは、所定のカードにて記録を行ない、データベース・ソフトを利用してコンピュータに登録した。

○ 平成7年度は、連合王国を中心とする地域における調査は次年度以降に延期して平成6年度の継続調査を実施し、中国、アメリカ合衆国、ロシア共和国等海外での調査の結果を総合して、より充実したデータの集積を継続した。

○ 平成8年度は最終年度であり、平成6、7年度の補完調査（日本、中国、ロシア共和国およびアメリカ合衆国等）と、集積した満洲語文献、とくに刊本データの集積を行なって、総合的なデータベースを作成し、『世界満洲語刊本目録』（仮題）編纂の基礎作業を行なう。

【代表者】 神田信夫研究員

【分担者】 松村潤、加藤直人、中見立夫、石橋崇雄の各研究員

および細谷良夫・東北学院大学教授

③【課 題】「戦前期中国調査資料の研究」（近代中国研究委員会）

【期 間】 平成7年10月～平成10年6月（2ヶ年9カ月間）

【目 的】 明治以降、日本の中国進出にともなって、政府および民間の機関は中国の社会、経済、政治、地理などについて各種の実態調査を行った。その成果をまとめた調査資料、調査報告書は、文献研究において参考にされるばかりでなく、近年可能になった中国での実態調査や歴史調査に際しても、旧中国社会の実像を語る資料として利用されている。しかし、調査項目が多岐にわたったり、また資料名からは伺えない内容、或いは調査者の意図を超えた内容を含んでいる場合もあり、資料の多角的かつ有効な利用を困難にしている。

こうした状況に鑑み、本研究は、①現在の研究状況をふまえて資料の内容と性格および利用価値を明らかにする解題を作成し、②この作業を通してこれら資料に窺える中国認識を再検討すると同時に、歴史研究における調査資料の位置付けを再考しようとするものである。1970年代末以降の中国社会の変貌により伝統的中国社会の連続性が再確認される今日、旧中国社会の実態究明は中国近現代史研究における課題の一つである。

本研究は、①そのための基礎データを内外の研究者に提供し、②戦前期の中国社会研究の批判的継承について新たな問題提起を行なうことにより、今後の中国研究に大きく寄与するものと確信する。

【研究計画・中間経過概要】

①資料の研究

- a. 研究の対照を中国主要部（華北、華中、華南）に関する調査資料とした。
- b. メンバーがこれまでに未利用の資料について、調査の目的と内容、調査実施の背景事情などの検討を通して、資料の性格、利用価値、内容の解明につとめた。
- c. 前記のb. と併せて既知の資料に再検討を行うとともに、資料の相互関連性を検討して、系統的な整理を進めた。

②資料の調査と収集

東洋文庫が所蔵していない重要資料については、他の機関で調査を行った。と同時に、基本的な研究を東洋文庫で行えるように、できる限りそれらの収集を図った。

③解題の作成

前記の②③に基づいてメンバーが分担した。

④調査資料に関する総括的研究

前記の①のなかでも行ったが、とくには③と併行して行った。

【代表者】 本庄比佐子研究員

【分担者】 内山雅生・宇都宮大学教授、三谷孝・一橋大学教授、久保享・信州大学助教授、奥村哲・東京都立大学助教授、坂野良吉・埼玉大学教授

国際交流基金アジアセンター文化財保存支援助成金事業

【課題】 「セント・ペテルスブルグ蔵敦煌等文書保存支援」

(プロジェクト代表：北村 甫理事長)

【期間】 平成7年度（新規事業）

【事業の背景・目的】

1900年、中国甘肅地方の敦煌において、5世紀初めから11世紀前半まで

の一大文書群約6万点が発見された。これは、中央アジア諸民族の興亡や中国の漢族との関係など、従来の歴史研究の空白を一挙に埋める今世紀最大の原文書の出現である。

ところが、発見より10年間ほどの短期間に、これらの文書はイギリス、フランス、ロシア、中国、日本など世界各地に四散秘蔵される結果となった。東洋文庫は、敦煌文献研究センターとして、すでにロンドンの大英図書館・旧インド省図書館約16,000点(92,000冊)、パリ国立図書館約7,000点(54,000冊)、北京図書館約9,000点(13,000冊)の敦煌文書のマイクロフィルムを組織的に収集してきた。今回は、唯一未収集のロシア科学アカデミー東洋学研究所 St. ペテルスブルグ所蔵の敦煌、吐魯番、カラホト等将来文書の保全とそのマイクロ化により文書の収集を企画するものである。

【事業計画の概要】

ロシアの St. ペテルスブルグ所蔵敦煌等文書の収集は、1909年の S. オルデンブルグ探検隊の派遣以来数次にわたって行われ、その文書数は約19,000点(25万冊)に達している。この敦煌文書は、漢文文献(紀年のある西暦406年から1002年の写本)の他に、チベット語(吐蕃)、ウイグル語(トルコ系)、西夏語、ソグド語(イラン系)、コータン語、サンスクリット語など13世紀までのアジア諸言語の文献を含んでいる。その文書の内容は、仏教文化を伝承した敦煌にふさわしく仏典の写本が最も多いが、その他各宗教の教典、文学、歴史書、行政・軍事の公文書、寺院関係などの私文書、暦、医薬書など多種多様である。そして、それら大半の漢文文献の中には、他国収蔵の敦煌等文書と縫合する文献が収蔵されてることも明らかとなっている。

①未整理・未公開の St. ペテルスブルグ所蔵文書をマイクロ化によって保全し、これを東洋文庫が収集できれば、世界最大の敦煌文書研究センターとなり、これらを日本内外の研究者に公開して、5世紀から13世紀の中国を含む内陸アジアの歴史、言語、宗教、文学などについて、より一層の総合的研究を推進することが期待される。

②ロシアの敦煌等内陸アジア出土文書は、イギリス、フランス、中国の所蔵をはるかに上回る一大文書群であるので、その質・量を考えると5ヶ年計画により出土文書のマイクロ化を期している。

【事業実績概要】

ロシア共和国科学アカデミー東洋学研究所セント・ペテルスブルグ支所蔵敦煌等文書は、Yu. A. ペトロシアン所長の情報においても概数約25万冊とあり、敦煌を中心とした内陸アジア諸民族およびその諸言語の文書群の詳細は不明に等しかった。そこで、まず平成7年度の現地調査においては、本事業担当責任者の佐藤次高(西アジアの言語)、西田龍雄(西夏=タングート

語、チベット語)、梅村坦(ウイグル語、トルコ諸語)の専門研究者を派遣して、St. ペテルスブルグ所蔵の文書群の調査・把握を行った。また、予備調査として西夏語、ウイグル語の極く1部をマイクロ化し蒐集することができた。

その結果、漢文文書の調査は次年度以降として、西夏語資料約3,000点、ウイグル語資料約4,000点、ホータン語約1,500点、サンスクリット語約3,000点などの文書のマイクロ化を世界にさきがけて行うこととした。

このほかに、アラビア語、モンゴル語、中国清朝の満文檔案、清朝末期蒐集のチベット語文書等の貴重資料があることが判明した。また、所期の事業目的に沿って敦煌等の文書を複製して貴重文書の保存支援のため、5ヶ年間事業として25万匁25万U.S.ドルによりマイクロフィルムを蒐集する契約書を交換することができた。

【評 価】 St. ペテルスブルグ東洋学研究所の所長以下、内陸アジア諸言語の専門研究者が、非常に友好的に敦煌等文書群の全体的把握調査と文書のマイクロ化作業に協力してくれたことにより、今後の本プロジェクト達成に確信を得た。St. ペテルスブルグ支所蔵の貴重な文化財である敦煌等文書の保存のために、文書のマイクロ化作業はその第一歩であるが、支所の写真技師により試験的に撮影した。そのネガフィルム807匁は、鮮明であり、当方の要求に充分に対応できることが分かったことは最も大きな収穫であった。

また、今後、マイクロフィルムによって将来した文書資料を使って研究し成果を発表するに際し、1論文1研究者3匁までの掲載・公表の利用を東洋文庫の責任のもとに許可されたことも大きな収穫である。

生化学工業株式会社寄付金特定事業 (南方史研究会)

【事業名】 東南アジア研究資料収集整理プロジェクト

[プロジェクト代表: 山本達郎研究員]

【期 間】 平成7年度～同9年度(第3次3ヶ年計画)

【目 的】 本プロジェクトは生化学工業株式会社社長水谷当称氏の寄付金5千万円を以て、東南アジア研究を促進するため、その研究資料を収集・整理し、研究者に公開することを目的とする。

【事 業】 1) モリソン2世文庫:平成6年度に引続き、コンピューターに入力したデータのチェックを完了し、目録の作成を継続した。

2) 東南アジア関係の資料の収集・補充に努めた。

榎一雄記念特定事業

【事業名】 榎一雄記念事業プロジェクト [プロジェクト代表：河野六郎研究員]

【期 間】 平成7年度～同11年度（第2次5ヶ年計画）

【目 的】 本プロジェクトは榎家よりの寄付金1億円を以て、同家より寄付された故榎一雄氏旧蔵書の整理を行い、その目録を作成、刊行する。

【事業】 1) 「榎文庫目録」の入力・校正を続行した。

2) 前年度に引続き、図書の整理を継続した。

3) 帙の作成を継続した。

v 研究委員会

研究部の研究事業を企画実施する研究委員会は、5部門12研究委員会にわかれる。平成7年度の各研究委員会に所属する研究員などは以下のとおりである。なお、専任・兼任の研究員以外にも、外国人研究員、奨励研究員、各大学派遣の国内研修教員なども各々の専門研究分野に応じて便宜上12研究委員会のいずれかに所属させた。

第1部 中国研究

東亜考古学：関野 雄、田村晃一

古代史：宇都木 章、越智重明、太田幸男、松九道雄

唐代史（敦煌文献）：池田 温、菊池英夫、土肥義和、藤枝 晃、松本 明
山口 洋, L.I.Chuguyevsky

宋代史：草野 靖、佐伯 富、斯波義信、笠沙雅章、千葉 戾、中嶋 敏

柳田節子、渡辺紘良、陳 洪真

明代史：鈴木立子、田中正俊、鶴見尚弘、山根幸夫、和田博徳、渡辺 宏

近代中国：市古宙三、滋賀秀三、田中正俊、本庄比佐子、矢澤利彦、金子 肇

鄭 海麟

第2部 日本研究

日本：石塚晴通、上野英二、海野一隆、酒井憲二、佐竹昭広、田中時彦、朽尾 武
鳥海 靖、宮崎修多、柳田征司、山口謡司

第3部 東北アジア研究

満洲・蒙古（清代史）：石橋崇雄、岡田英弘、加藤直人、神田信夫

C. A. ダニエルス、中見立夫、松村 潤、丹治輝一

朝鮮：梅田博之、大江孝男、河野六郎、武田幸男、古屋昭弘、森岡 康

山内弘一

第4部 中央アジア・イスラム・チベット研究

中央アジア・イスラム：梅村 坦，片山章雄，後藤 明，小松久男，佐藤次高
清水宏祐，志茂碩敏，薮 勇造，杉山正明，永田雄三，花田宇秋
林佳世子，本田實信，三浦 徹，護 雅夫，八尾師 誠，Ilhan Şahin
何 星亮，江川ひかり，川口琢治
チベット：川崎信定，北村 甫，立川武蔵，西田龍雄，福田洋一，星 實千代
松濤誠達，御牧克己，山口瑞鳳，Tempa Gyaltsen

第5部 インド・東南アジア研究

南方史：荒 松雄，池端雪浦，石井米雄，小名康之，風間喜代三，後藤均平
永積洋子，原 實，三根谷 徹，山崎元一，山本達郎

2. 学術図書出版

東洋文庫和文紀要

『東洋学報』 第77巻1・2号 平成7年10月刊 A5判 232頁
『東洋学報』 第77巻3・4号 平成8年3月刊 A5判 189頁

東洋文庫欧文紀要

“Memoirs of Research Department of the Toyo Bunko” No.53 1995年刊 B5判 112頁

東洋文庫各種研究委員会刊行物

チベット研究委員会

『チベット仏教基本文献第1巻』 平成8年3月刊 B5判 viii+60頁
『チベット特別調査研究年次報告』 平成8年3月刊 A5判 10頁

近代中国研究委員会

『近代中国研究叢報』 第18巻 平成8年3月刊 A5判 136頁

明代史研究委員会

『千頃堂書目著者名索引』 平成8年3月刊 B5判 iv+487+4頁

宋代史研究委員会

『宋史選挙志譯註（二）』

平成8年3月刊 A5判 5+482+2頁

東洋文庫諸目録・其他刊行物

『東洋文庫所蔵 岩見コレクション目録』 平成8年3月刊 A4判 370頁

『東洋文庫書報』 第27号 平成8年3月刊 A5判 94頁

『東洋文庫新着図書目録』 第43号 平成8年3月刊 B5判 83頁

『東洋文庫年報』（平成6年度版） 平成7年8月刊 A5判 111頁

3. 講演会

春期 東洋学講座（共通テーマ；アルタイ諸語の世界）

第425回 平成7年5月23日（火）

「アルタイ諸言語とその構造」

東洋文庫研究員・東京外国語大学名誉教授 大江 孝男 氏

第426回 平成7年5月30日（火）

「ツングースのことばと文化」

小樽商科大学言語センター助教授 津曲 敏郎 氏

第427回 平成7年6月6日（火）

「古代ウイグル文書の世界」

大阪大学教授 森安 孝夫 氏

秋期 東洋学講座（共通テーマ；アジアの聖者伝説【I】）

第428回 平成7年10月17日（火）

「聖者伝と奇蹟－奇蹟譚にみえるイスラム聖者の実像－」

上智大学アジア文化研究所助教授 私市 正年 氏

第429回 平成7年10月24日（火）

「聖者信仰の近代－インドネシアの事例－」

東京大学東洋文化研究所教授 関本 照夫 氏

第430回 平成7年11月7日（火）

「瞑想法の行者たち」

東洋文庫研究員・国立民族学博物館教授 立川 武蔵 氏

特別講演会（不定期）

第1回 平成7年6月2日（金）

「アゼルバイジャン語の現代—トルコ語とロシア語のはざまで—」

アゼルバイジャン科学アカデミー言語研究所所長 アガム・アブドゥラフ 氏

第2回 平成7年6月20日（火）

「ロシアにおける満洲学」

ロシア科学アカデミー極東研究所副所長 V. S. ミヤニコフ 氏

第3回 平成7年6月20日（火）

「近年の中国における清史および近現代史研究をめぐって」

中国人民大学教授 戴 逸 氏

第4回 平成7年7月14日（金）

「徽州文書の史料的价值をめぐって」

中国社会科学院歴史研究所研究員 樂 成顕 氏

第5回 平成7年8月1日（火）

「モンゴル国における「大蒙国」研究」

モンゴル科学アカデミー東北アジア研究センター所長 Chuluny Dalai 氏

第6回 平成7年11月1日（水）

「古代チュルク宗教における政治的背景について」

ロシア科学アカデミー St. ペテルブルク 主任研究員 S. G. クリヤシュトスイ 氏

第7回 平成7年11月1日（水）

「St. ペテルブルク 東洋学研究所 所蔵の古蔵語及び蒙古語文献について」

ロシア科学アカデミー St. ペテルブルク 上級研究員 V. L. ウスハンスキ 氏

第8回 平成7年11月1日（水）

「天地創造に関する西夏の神話」

ロシア科学アカデミー St. ペテルブルク 副所長 E. I. クイチャーノフ 氏

第9回 平成7年12月5日（火）

「ウズベキスタンにおける東洋学の現状—中央アジア中世史研究を中心に—」

東洋学ウズベキスタン科学アカデミー研究所前所長 アサン・ウルハエフ 氏

第10回 平成7年12月19日（火）

「Interpreting the Social History of Timurid Architecture : The Timurid

Buildings of Balkh」 ニューヨーク大学教授 Robert D. McChesney 氏

第11回 平成7年12月21日（木）

「オスマン時代アナトリアの遊牧民」

トルコ・マルマラ大学准教授 イルハン・シャーヒン 氏

4. 研 究 会 (東洋文庫談話会)

平成8年3月8日 (金)

「1930年代の中国における同業団体と同業規制

ー上海の工商同業公会を事例としてー」

東洋文庫受入研修教員・下関市立大学助教授 金 子 肇 氏

5. 学 術 情 報 提 供

i 研究者養成

モンゴル研究 川口 琢司 (北海道大学P.D.)

「モンゴル・ティムール朝期の写本史料研究」

トルコ研究 江川ひかり (お茶の水女子大学P.D.)

「近代トルコにおける農村社会の変容」

中国研究 山口 洋 (中央大学P.D.)

「趙氏高昌国を中心とする河西地域史の研究」

ii 研究者の交流および便宜供与のサービス

1) 国内研究者の受入

丹 治 輝 一 北海道開拓記念館学芸員

「明清代中国東北部の交易経済と交通の発達」(平成7年9月26日～

12月27日・3ヶ月間・北海道開拓記念館の依頼)

金 子 肇 下関市立大学経済学部助教授

「近代中国における地方行財政史 (平成7年10月1日以降6ヶ月間・

下関市立大学の依頼)

2) 外国人研究者の受入

L.I. Chuguyevsky ロシア科学アカデミー東洋学研究所上級研究員

「オルデンプルグ蒐集敦煌及び東トルキスタン発見社会経済史文書の

総合的研究」(平成7年7月以降10ヶ月間・日本学術振興会招聘)

Tempa Gyaltsen 東洋文庫招聘研究員

「東洋文庫チベット研究委員会による『チベット語文語辞典』の編纂協力」
(平成元年5月以降招聘)

陳 洪 真 中国北京市鉄鋼研究総院研究員

「中国冶金技術発達史—特に宋代經濟史における鉄・銅等技術史の研究—」(平成5年6月以降2ヶ年間・私費)

鄭 海 麟 中国深圳大学助教授

「中国の知識人と民主化運動」(平成7年1月以降1ヶ年間・東京崇正公会招聘)

Ilhan Şahin トルコ・マルマラ大学准教授

「16世紀のオスマン・アナトリアの遊牧民に関する共同研究」
(平成7年6月29日以降6ヶ月間・国際交流基金招聘)

何 星 亮 中国社会科学院民族研究所副研究員

「中国新疆における民族の歴史と文化」
(平成7年12月27日以降1ヶ年間・私費)

3) 研究者の派遣

4) 外国人研究者への便宜供与

Azerbaijan

Agamusso Akhundov Prof. Director, Institute of Linguistics,
Azerbaijan Academy of Sciences. Baku.

China (People's Republic)

王 凌	中国第一歴史檔案館編研部助理研究員
俞 鹿年	中国社会科学院研究生院法学系教授
劉 鳳雲	中国人民大学清史研究所副教授
関 捷	東北民族学院副院長、教授
戚 其章	山東省社会科学院歴史研究所研究員
田 人隆	中国社会科学院歴史研究所研究員
戴 逸	中国人民大学清史研究所名誉所長、教授
劉 春光	東北師大日本研究所教授
樂 成顕	中国社会科学院歴史研究所研究員
陳 洪真	中国北京市鉄鋼研究総院研究員
馬 興国	遼寧大学日本研究所長

陳 翠蓮 ♪ 公共行政學系副教授
 鄭 梓 逢甲大學歷史教學系教授

France

Françoise Bottero Centre National de la Recherche Scientifique, Centre de Recherche Linguistique D'Asie Oriental, Paris.

Germany

H. A. Dettmer Prof. Emeritus, Univ. of Bochum.

Hong Kong

吳 燕和 香港中文大學人類學系教授
 黎 逸蓮 ♪ 歷史學系大學院生

India

Romila Thapar Prof. Emeritus, Jawaharlal Nehru Univ., New Delhi.

Anil Kumar Srivastava Junior Scientific Officer, Bureau of Police Research and Development, Ministry of Home Affairs.

De Barum Dr., director, Maulana Abul Kalam Azad Institute of Asian Studies, Calcutta.

Italy

Giovanni Sary Prof. Dr., Univ. of Venice.

Korea

Hong Soon Nam Prof., Hankook Univ. of Foreign Studies.

Song Kyong Suk Prof., Hankook Univ. of Foreign Studies.

Sim Ui Sup Prof., Myong-Ji Univ.

Byoung Joo Hah Prof., Pusan Univ. of Foreign Studies.

Cho Hee Sun Prof., Myong-Ji Univ.

秦 教勲	ソウル大学校中央図書館長
金 成中	ソウル大学校図書館電算化課長
朴 延珠	〃 図書館員
曹 順英	〃 文科大学教授

Mongol

Khereid L. Jamsran	Leading Scholar of the Institute of Oriental and International Studies Mongolian, Academy of Sciences, Ulaanbaatar.
Chulunyn Dalai	Prof. Dr. Director, Center for North-East Asian Studies, Academy of Sciences.
Zhambaldrj Serjee	Director, State Central Library of Mongolia.
Naidan Tsagaach	Chief Librarian, State Central Library of Mongolia.

Netherlands

Erik Z rcher	Prof. Dr., Sinological Institute, Leiden Univ., Leiden.
--------------	---

Russia

V. S. Miasnikov	Deputy Director, Institute of Far Eastern Academy of Sciences, Studies of the Russian Moscow.
Leonid I. Chuguyevsky	Senior Research Worker, Institute of Oriental Studies (St. Petersburg), Russian Academy of Sciences.
Tatiana A. Pang	Secretary, Institute of Oriental Studies (St. Petersburg), Russian Academy of Sciences.
Sergey G. Klyashtorny	Dr. Head of the Dep. of Turkish and Mongolian Studies, Institute of Oriental Studies (St. Petersburg Branch), Russian Academy of Sciences, St. Petersburg.
V. L. ウスペンスキ	ロシア科学アカデミー東洋学研究所 サンクト・ペテルブルグ支部上級研究員
E. I. クイチャーノフ	ロシア科学アカデミー東洋学研究所 サンクト・ペテルブルグ支部副所長

Singapore

陳 榮照	新加坡国立大学中文系主任、漢学研究中心主任、副教授
------	---------------------------

李 焯然 新加坡国立大学中文系教授

Sweden

Roger Greatrex Associate Prof. of Chinese Studies, Dept. of East Asian Languages,
Lund Univ.

U. K.

Marjorie Dryburgh Assistant Director, East Asia Research Centre, Univ. of Sheffield.

Joseph McDermott Univ. Lecturer, Cambridge Univ.

J.A.A. Stockwin Prof. of Modern Japanese Studies, Nissan Institute of Japanese
Studies, Univ. of Oxford.

U.S.A.

葉文心 Associate Prof., Department of History, Univ. of California.
(Wen-hsin YEH)

Kathy LeMons Walker Prof. Department of History, Temple Univ., Philadelphia.

Joan Judge Assistant Prof. of History, Univ. of Utah.

Joshva A. Fogel Prof. East Asian History Department, Univ. of California, Santa
Barbara.

Uzbekistan

Asom Yrynbaev Dr. Abu Raikhan Beruni Oriental Studies Institute, Academy of
Sciences Republic of Uzbekistan, Tashkent.

Turgun Fayziyev Dr. Abu Raikhan Beruni Oriental Studies Institute, Academy of
Sciences Republic of Uzbekistan, Tashkent.

Galiba Juraeva Dr. Abu Raikhan Beruni Oriental Studies Institute, Academy of
Sciences Republic of Uzbekistan, Tashkent.

iii 研究会等への会場提供サービス

数量\月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
研究会等回数	16	21	22	15	8	12	25	22	23	8	25	18	215回
参加人数	135	351	334	150	146	80	192	188	260	80	168	195	2,279人

iv 研究資料の覆刻・増刷の刊行サービス

東洋学報第76巻3・4号, 77巻1・2号	各500部
東洋文庫所蔵アラビア語文献目録補遺	200部
東洋文庫所蔵トルコ諸語文献目録補遺	150部
東洋文庫所蔵チベット語活字本目録など2種	各100部
近代中国研究彙報第17号	70部
東洋文庫欧文紀要第52号など2種	各50部

v 参考情報提供サービス

『東洋文庫年報』 平成6年度版 A5判 1冊 111頁
『東洋文庫所蔵岩見コレクション目録』 A4判 1冊 370頁
(上記の出版については、2.「学術図書出版」に一括されているので参照されたい。)

※なお、《6.学術情報提供》における「図書資料の閲覧（協力）サービス」、「研究資料複写サービス」の事業報告については、『I.図書事業』の項目に便宜上、一括して掲載した。また、同じく「特定研究資料の収集」、「研究資料の補修再製本・製本」については、平成7年度はとくに報告することはない。

6. 職員の研究業績

期間：平成7年4月1日～平成8年3月31日まで

略号：①…著書 ②…編書 ③…論文 ④…学会動向 ⑤…書評・紹介
⑥…翻訳 ⑦…講演 ⑧…その他（評論・雑記・座談会等）

池田 温

③「天寶後期の唐・羅・日関係をめぐって」（『春史方麟錫教授還暦紀年唐史論叢』、大邱208～251頁、1995年5月）、「『梅花百詠』をめぐる日・琉・清間の交流」（『創価大学創立25周年記念論文集』、388～400頁、1995年12月）、「唐・日喪葬令の一考察—條文排列の相異を中心として—」（『法制史研究』45、39～71頁、1996年3月）、④「慶祝敦煌研究院成立50周年1994年敦煌学国際學術研討会」（『唐代史研究会会報』8、10～15頁、1995年6月）、「敦煌・吐魯番研究」（『東方学会報』69、10～12頁、1995年12月）、⑤佐々木栄一「スタイン漢文文書六一三号（いわゆる計帳様文書）をめぐって—給田の実態を中心に—」（『法制史研究』45、248～251頁、1996年3月）、「榮新江『英國圖書館藏敦煌漢文非佛教文獻殘卷目錄』（『東洋學報』77-3・4、65～72頁、1996年3月）、⑦「關於唐宋時代的結為兄弟憑」（『中国唐史学会國際唐史學術檢討会、1995年9月14日於武漢大』）、⑧「『會報』第8号によせて」（『唐代史研究会会報』8、1頁、1995年6月）、「唐長孺先生の計」（同上 40～41頁）、「『学会一覧』の出現を望む」（『學術月報』48-12、63頁、1995年12月）、「漢語をまなぶたのしさ」（『你好』44、1～3頁、NHK学園、1996年2月）、「宮崎市定先生を憶う」（『東洋史研究』54-4、65～72頁、1996年3月）。

石井 米雄

③“Buddhism [and Democracy]”（Seymour Martin. Lipset (ed.), *The Encyclopedia of Democracy*, Volume 1. London: Routledge. pp.141～145, 1995.）、「交易時代のアユタヤ」（『東洋陶磁』23-24、39～44頁、1995）、「暹・スコタイ・アユタヤ（試論）—く第十一刻文〉の検討を中心に」（『東方学』89、1～16頁、1995年）、「タイの事例を中心にした明治期以前の日本と東南アジアの関係」（萩原・後藤編『東南アジア史の中の近代日本』、15～32頁、みすず書房、1995年）。

石橋 崇雄

③「清初祭天儀礼考—特に『丙子年四月＜秘録＞登ハン大位檔』における太宗ホン＝タイジの皇帝即位記録にみえる祭天記事を中心として—」（石橋秀雄編『清代中国の諸問題』、57～92頁、山川出版社、1995年7月）、「六部『成語類』く『同文彙集』所収『滿洲語索引』く兵部・刑部・工部—『六部成語』総合索引への一環として—」（『国士

館大学文学部人文学会紀要28、47～62頁、1995年10月)、「『兵部成語』〈『清文備考』所収〉満州語索引(F～Y)－『六部成語』総合索引への一環として－」(国士館大学情報科学センター紀要17、58～84頁、1996年3月)、「満文『han i araha gucu hoki i leolen. (御製朋党論)』(上)」(国士館史学4、1～16頁、国士館大学文学部国史学・東洋史学専攻、1996年3月)、⑦「満州語をめぐる－清朝の歴史・社会・文化を知る一助として－」(満学協会平成7年度総会(於：アジア文化会館)、1995年10月7日)、⑧「蘇武持節」(『歴史IV(十八史略・上)』、漢詩・漢文教材研究会編『漢詩・漢文解釈講座』第11巻、402頁～414頁、昌平社、1995年5月)、「有三代風」(『歴史IV(十八史略・上)』、漢詩・漢文教材研究会編『漢詩・漢文解釈講座』第11巻、421頁～431頁、昌平社、1995年5月)、「行列2(中国の)」(『歴史学事典』3「かたちとしるし」、238～239頁、弘文堂、1995年7月)、「マテオ・リッチ」(『人物世界史』3「東洋編(東アジア・内陸アジア)」、130～133頁、山川出版社、1995年7月)、「呉三桂」(『人物世界史』3「東洋編(東アジア・内陸アジア)」、134～137頁、山川出版社、1995年7月)、「ヌルハチ」(『人物世界史』3「東洋編(東アジア・内陸アジア)」、140～143頁、山川出版社、1995年7月)、「ダライ・ラマ5世」(『人物世界史』3「東洋編(東アジア・内陸アジア)」、144～147頁、山川出版社、1995年7月)、「康熙帝」(『人物世界史』3「東洋編(東アジア・内陸アジア)」、148～151頁、山川出版社、1995年7月)。

宇都木 章

③「『春秋』にみえる魯の「邑に城く」ことについて」(五井直弘編『中国の古代都市』、65～104頁、汲古書院、1995年9月)、⑤「夏商社会生活史」(東洋学報77-1・2、135～142頁、東洋文庫、1995年10月)、⑦「春秋時代の魯の諸邑について」(東洋文庫古代史研究室・中国都市研究会、1995年4月28日)、⑧「法門寺の銀の茶碗」(松濤3、1995年3月、2頁)。

梅村 坦

③「国立中央博物館藏 Bezeklik 壁画 Uighur 銘文試釋」(関内勲共著、美術資料55、119～155、166～167頁、韓国国立中央博物館、1995年6月)、「ユルドゥズ草原とタリムのオアシス」(沙漠研究5-2、91～106頁、日本沙漠学会、1996年2月)、⑦「Beshbaliq 仏教寺院肖像画の銘文」(内陸アジア出土古文献研究会、東京大学、1995年4月15日)、「天山の牧地とタリムのオアシス」(日本沙漠学会第6回学術大会公開シンポジウム「タクラマカン沙漠における生活基盤の変化と対応」、立正大学、1995年5月21日)、「内蒙古・東北のモスクと宗教事情」(第32回日本アルタイ学会〈野尻湖クリルタイ〉、1995年7月17日)、「マルコ＝ポーロとシルクロード世界」(中央大学クレセントアカデミー文芸・教養講座、中央大学駿河台記念館、1995.4.26/5.10/

5.24/6.7/6.21/7.5/9.27/10.11/10.25/11.8/11.22/12.6)、⑧「ウルムチ・シルクロード・中央ユーラシア」(世界民族問題事典、203、531～532、696頁、平凡社、1995年9月)、「アンネマリー・フォン・ガベン教授(1901.7.4～1993.1.15)」(東洋学報77-3・4、80～86頁、東洋文庫、1996年3月)。

海野 一隆

①『地図の文化史－世界と日本－』(八坂書房、1996年2月、176+39頁)、③"A Surveying Instrument Designed by Hojo Ujinaga, 1609 - 1670" (*East Asian Science : Tradition and Beyond - Papers from the Seventh International Conference on the History of Science in East Asia*, Kyoto, 1993, ed. by Hashimoto, K., Jami, C., and L. Skar, 411～417, Osaka, 1995)、④「ハリー地図学史研究奨学金第2回授与」(科学史研究194、117頁、日本科学史学会、1995年7月；地図33-4、28頁、日本国際地図学会、1995年12月)、⑦"A Method of Representing Mountains in the Early East - Asian Cartography" (16th International Conference on History of Cartography, Wien, 1995年9月13日)、⑧「森島中良の『大日本地名便覧』」(日本古書通信60-8、3～6頁、日本古書通信社、1995年8月)、「『増補地球全図』問証堂蔵版(銅板)」(洋学＜洋学史学会研究年報＞3、8～9頁、八坂書房、1995年10月)、「『環海異聞』の知られざる善本(上、下)」(日本古書通信60-10、-11、5～7頁、20～21頁、日本古書通信社、1995年10、11月)、「イギリスへ行った最初の日本人」(学鑑92-12、16～19頁、丸善、1995年12月)。

太田 幸男

③「侯外廬『中国古代社会史論』の意義について」(『堀敏一先生古稀記念中国古代の国家と民衆』、801～816頁、汲古書院、1995年4月)、「歴史と道德とのかかわり－太平天国の人物像を通して－」(中村義編『新しい東アジア像の研究』、287～307頁、三省堂、1995年7月)、「侯外廬の都市国家論をめぐって」(五井直弘編『中国の古代都市』、149～166頁、汲古書院、1995年9月)、⑧「張戎(土屋京子訳)『ワイルド・スワン』を読んで」(歴史評論549、100～101頁、校倉書房、1996年1月)、「強大な経済力、軍事力で繁栄した東方の雄、"斉"」(『歴史群像シリーズ44、秦始皇帝』、156～161頁、学習研究社、1995年10月)。

大江 孝男

⑦「アルタイ諸言語とその構造」(東洋文庫春期東洋学講座第425回、1995年5月23日、要旨：東洋学報77-1・2、165～166頁、東洋文庫、1995年10月)、「共通語(標準語)の性格と機能・(朝鮮語)」(KOREAN規範問題に関する国際学術討論会、中国吉林省延吉延迎大学朝鮮言語文化研究所、1995年8月3～4日)、⑧「服部四郎先生の思い出」(東方学90、201～205頁、東方学会、1995年7月31日、収録：服部旦編・発

行『服部四郎追悼文集』、32～39頁、1996年1月29日)、「大江孝男教授一略歴と著作」(アジア・アフリカ言語文化研究50、219～226頁、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、1995年9月30日)。

岡田 英弘

②『絵で見る中国の歴史(第3巻 三国時代から南北朝時代)』(原書房、1995年4月、524頁)、『絵で見る中国の歴史(第4巻 隋・唐の統一から五代十国の時代)』(原書房、1995年5月、535頁)、『絵で見る中国の歴史(第5巻 宋・遼・金から元の時代)』(原書房、1995年6月、520頁)、『絵で見る中国の歴史(第6巻 明の統一から清の時代)』(原書房、1995年7月、561頁)、③『『史記』と『ヒストリアイ』 中国人にとって歴史とは何か』(月刊しにか6-4、64～71頁、大修館書店、1995年4月)、「中国に日本型国民国家は有効か」(世界610、254～260頁、岩波書店、1995年7月)、「邪馬台国はどこだ! 狂言説 魏志倭人伝は虚像を今に伝えている」(日本史の謎、46～47頁、世界文化社、1995年7月、再録)、「中国史は始皇帝から始まった」(歴史群像シリーズ44、『秦始皇帝 中国を創造した絶対者』、93～108頁、学習研究社、1995年10月)、「歴史としての台湾」(大航海7、133～141頁、新書館、1995年12月)、「蒙古襲来—なぜモンゴルは日本に来たか」(『見る・読む・わかる日本の歴史 原始・古代から近代・現代まで』、中世36～37頁、朝日新聞社、1995年12月、再録)、④“In Memoriam: Shiro Hattori (1908 – 1995)” (*Permanent International Altaistic Conference (P.I.A.C.) Newsletter* 23, 5～6頁、1995年6月)、“In Memoriam: Shichiro Murayama (1908 – 1995)” (同前、6～7頁)、「第38回国際アルタイ学会」(東洋学報77-3・4、87～94頁、1996年3月)、⑤「宮崎市定著『遊心譜』 学究生活七十年の本音を語る 中国に対する勝手な思いこみとの戦いの連続 厳しくもモダンな学風」(図書新聞2246、3面、1995年5月20日)、⑦「台湾の歴史的アイデンティティと清朝の本質」(馬關條約一百年—台湾命運の回顧與展望—國際學術研討會、台北國際會議中心、1995年4月15日、中国語訳:「台灣的歷史認同和清朝の本質 中國王朝の統治從未延及台灣」、自由時報2674、馬關條約一百年—台湾命運の回顧與展望國際學術研討會特刊、1、2、7頁、自由時報社、1995年4月16日)、「日本史の誕生(1) 倭人から倭国へ1 東北アジアの夜明け: 朝鮮王国」(朝日カルチャーセンター、1995年4月21日)、「日本史の誕生(1) 倭人から倭国へ2 倭人の出現: 真番郡と楽浪郡」(朝日カルチャーセンター、1995年5月12日)、「下関条約百年を振り返って 台湾の命運」(エグゼクティブ・アカデミー朝食会、ホテル・オークラ、1995年5月16日、全文: エグゼクティブ・アカデミー、1～33頁、1995年7月)、「日本史の誕生(1) 倭人から倭国へ3 親魏倭王卑弥呼: 「魏志東夷伝」の世界」(朝日カルチャーセンター、1995年6月2日)、「日本史の誕生(1) 倭人から倭国へ4 謎の四世紀: 邪馬台国女王の没落」(朝日カルチャーセンター、1995年6月16日)、「日本史の誕生(1) 倭人から倭国へ5

倭国の誕生：仁徳天皇と百済王国」(朝日カルチャーセンター、1995年6月30日)、「The Imperial seals in the Mongol and Chinese traditions」(The 38th Meeting of the Permanent International Altaistic Conference、三菱信託銀行川崎研修所、1995年8月9日)、「邪馬台国女王卑弥呼の正体」(あけぼの会、中野区立歴史民俗資料館、1995年9月13日)、「日本史の誕生－倭国の発展」(古代を学ぶ会、中野区勤労福祉会館、1995年9月21日)、「国民国家」(日本経済調査協議会鈴木治雄委員会「文明の対立と融合」、有楽町富士ビル、1995年9月25日)、「秦の始皇帝」(中国史を学ぶ会、中野区勤労福祉会館、1995年10月2日)、「日本史の誕生(2) 倭国の発展1 五胡十六国の乱と高句麗王国」(朝日カルチャーセンター、1995年10月6日)、「古代中国の皇帝たち－秦・漢・三国・晋・南北朝－1 秦の始皇帝」(朝日カルチャーセンター・横浜、1995年10月13日)、「日本史の誕生(2) 倭国の発展2 百済王国の建国と難波の倭王」(朝日カルチャーセンター、1995年10月20日)、「歴史的に見て中国とは何か」(日本経済調査協議会鈴木治雄委員会「文明の対立と融合」、有楽町富士ビル、1995年10月26日)、「古代中国の皇帝たち－秦・漢・三国・晋・南北朝－2 前漢の武帝」(朝日カルチャーセンター・横浜、1995年10月27日)、「日本創建の基本性格－今後への提言」(武山事務所寿山会、ホテルオークラ、1995年11月6日、全文：TAKEYAMA REPORT 770、武山事務所、1995年11月)、「古代中国の皇帝たち－秦・漢・三国・晋・南北朝－3 曹操(魏の武帝)」(朝日カルチャーセンター・横浜、1995年11月10日)、「日本史の誕生(2) 倭国の発展3 河内王朝の「倭の五王」」(朝日カルチャーセンター、1995年11月17日)、「古代中国の皇帝たち－秦・漢・三国・晋・南北朝－4 司馬懿(晋の宣帝)」(朝日カルチャーセンター・横浜、1995年11月24日)、「日本史の誕生(2) 倭国の発展4 播磨王朝と越前王朝」(朝日カルチャーセンター、1995年12月1日)、「古代中国の皇帝たち－秦・漢・三国・晋・南北朝－5 北魏の孝文帝」(朝日カルチャーセンター・横浜、1995年12月8日)、「日本史の誕生(2) 倭国の発展5 越前王朝から日本建国へ」(朝日カルチャーセンター、1995年12月15日)、「日本史の誕生(3) －日本建国と『日本書紀』－1 天武天皇と『日本書紀』の編纂」(朝日カルチャーセンター、1996年1月19日)、「コメント」(21世紀かながわ円卓会議、かながわ学術研究交流財団・日本経済調査協議会共同主催、神奈川県葉山町湘南国際村センター国際会議場、1996年1月20日)、「良い歴史、悪い歴史－歴史をどう教えるか－」(国際関係基礎研究所朝食会、ホテル・オークラ、1996年1月29日、全文：国際関係基礎研究所、1～31頁、1996年3月5日、要旨：アカデミー月報113、6～7頁、1996年2月)、「日本史の誕生(3) - 日本建国と『日本書紀』-2 壬申の乱と神武天皇・日本武尊の出現」(朝日カルチャーセンター、1996年2月2日)、「日本史の誕生(3) －日本建国と『日本書紀』－3 第二越前王朝と「大和朝廷」の物語」(朝日カルチャーセンター、1996年2月16日)、「日本史の誕生(3) －日本建国と『日本書紀』－4 日本の建国と「大化の改新」」(朝日カルチャーセンター、1996年3月

1日)、「日本史の誕生(3)ー日本建国と『日本書紀』ー5 日本語はいかに造られたか」(朝日カルチャーセンター、1996年3月15日)、「漢字の運命」(中国史を学ぶ会、中野区勤労福祉会館3階会議室①、1996年3月25日)、⑧「モンゴルが世界をつくった」(大航海3、82～101頁、新書館、1995年4月、インタビュー)、「質問」(北岡伸一『日米関係の現状と展望』、26～27頁、国際関係基礎研究所、1995年5月)、「ヘーロドトス 「歴史の父」は「旅行の父」と呼んでもいい古代の大旅行家であった」(大航海4、144～145頁、新書館、1995年6月)、「この人に聞く 岡田英弘」(Securitarian 438、57～59頁、防衛弘済会、1995年6月、インタビュー)、「75字で書くエッセイ 談合組織」(ざっくばらん22-8、10頁、並木書房、1995年8月1日)。

越智 重明

③「六朝貴族制前史」(久留米大学文学部紀要 国際文化学科編7、74～107頁、久留米大学、1995年6月)、「六朝貴族制前史(2)」(久留米大学文学部紀要 国際文化学科編8、55～82頁、久留米大学、1995年12月)、「戦国秦漢時代の集落(2)」(久留米大学比較文化研究所紀要17、1～82頁、久留米大学、1996年3月)、「漢六朝の家産の多様性をめぐって」(久留米大学比較文化年報5、35～106頁、久留米大学、1996年3月)。

加藤 直人

②『満族史研究通信』(第5号、満族史研究会、1995年12月、76頁)、③「清代双城堡の屯墾についてー咸豊元年の副都統職銜総管設置をめぐってー」(石橋秀雄編『清代中国の諸問題』、141～158頁、山川出版社、1995年7月)、⑧「アメリカにおける満洲語文献」(満族史研究通信5、43～45+4頁、1995年12月)、「中国第一歴史檔案館創立七十周年記念事業と第二屆明清檔案与歴史研究學術討論会」(満族史研究通信5、55～63頁、1995年12月)。

風間 喜代三

②『英語学人名辞典』(研究社、1995年6月)、「『言語学大辞典』6巻 術語編」(三省堂、1995年12月)、⑧「フィロロジーへの招待」(月刊言語1995-5、68～73頁、大修館書店、1995年5月)。

片山 章雄

【平成5年度】

②『週訖タリят・シネ＝ウス両碑文(8世紀中葉)のテキスト復原と年代記載から見た北・東・中央アジア』(東海大学文学部、1994年1月、カ+40頁、図版多数)、

③「シネ＝ウス碑文における「748年」」(『廻紇タリウト・シネ＝ウス両碑文(8世紀中葉)のテキスト復原と年代記載から見た北・東・中央アジア』、10～14頁、東海大学文学部、1994年1月)、⑧「旅順博物館所蔵品展の伏羲女媧図」(月刊しにか4-4、62～63頁、大修館書店、1993年4月)。

【平成6年度】

③「関于高昌吉利錢」(西域研究1995-1、58～65頁、新疆社会科学雑誌社、1995年3月)、⑤「本田隆成著『大谷探検隊と本田恵隆』」(静岡新聞1994年7月3日、10面)、⑦「光瑞上人の人物像」(本願寺別府別院大谷記念館仏教文化センター第3回、別府、1994年11月2日)、⑧「風と砂のオアシス都市 楼蘭の遺跡—その歴史と現状—」(ラボの世界182、6～7頁、ラボ国際交流センター、1995年1月)、「大論争を巻きおこした「さまよえる湖」ロプノールの真相」(Newton15-3、72～73頁、教育社、1995年3月)、シルクロードの地理と歴史」(清泉文苑12、19～21頁、清泉女子大学人文科学研究所、1995年3月、「スウェン・ヘディンと大谷光瑞—交友初期の一齣—」(清泉文苑12、49～51頁、1995年3月)。

【平成7年度】

③「高昌吉利錢について」(『小田義久博士還暦記念東洋史論集』、77～92頁、龍谷大学東洋史学研究会、1995年7月)、「吐魯番出土伏羲女媧図の整理」(紀尾井史学15、45～56頁、図版4、上智大学大学院、1995年12月)、⑦「楼蘭出土李柏文書の欠損補充と断片接合」(中国西域楼蘭学与中国文明国際學術討論会[コルラ]、1995年10月26日)。

川崎 信定

③「[報告] 一切智の思想研究について—人間の智とそれを超えるもの—」(東方11、183～192頁、東方学院、平成7年12月)、「チベットの仏教と東アジア—その交渉関係を近藤重蔵著『喇嘛考』を通して考える」(『シリーズ・東アジア仏教』第一巻「東アジア仏教とは何か」、289～316頁、春秋社、1995年4月)、「河口慧海師と『チベットの死者の書』」(『河口慧海の世界』、20～29頁、大正大学、1995年3・6月)、「人間の知とそれを超えるもの—一切智を通して考える—」(豊山派教学大会紀要23、1～24頁、豊山教学振興会、1995年12月)、「一切智研究の目指すもの」(大谷大学学報、1996年3月)、「密教について」(築地本願寺文化講座、築地本願寺、1996年3月)、⑦「こころとはなにか?」(船橋市主催、市立夏見公民館、1995年11月26日)。

神田 信夫

③「uksun考」(閻崇年編『満学研究第二輯』、41～45頁、北京・民族出版社、1994年12月)、「満文訳『元史』の稿本について」(『慶祝札奇斯欽教授八十寿辰學術論文集』、269～287頁、台北・聯合報文化基金会国学文献館、1995年3月)、「朝鮮国来書簿に

について」(満族史研究通信5、9～14頁、満族史研究会、1995年12月)、⑦「關於《歴代宝案》的第二集」(第二届明清檔案与歴史研究學術討論会、1995年10月6日、北京・金台飯店)、「大連市図書館所蔵の清初史資料」(満族史研究会第10回大会、1995年11月2日、京都・龍谷大学)、⑧「賀辞」(閻崇年編『満族研究第二輯』、40～41頁、北京・民族出版社、1994年12月)、「1994年増補—清代」(山根幸夫編『中国史研究入門(下)』、562～563頁、572～574頁、山川出版社、1995年2月)、「漢籍与日本」(達力扎布訳、王鍾翰編『満学朝鮮学論集』、1～3頁、北京・中国城市出版社、1995年7月)、「在慶祝中国第一歴史檔案館成立七十周年大会上講話」(歴史檔案1996—1、7、6頁、北京・歴史檔案雜誌社、1996年2月)。

草野 靖

③「魏晋の九品官人法」(福岡大学人文論叢27—3、1615～1655頁、福岡大学総合研究所、1995年12月)。

後藤 均平

⑧「豊後国史考」(汲古27、15～26頁、汲古書院、1995年6月)、「五十年滄浪」(青丘22、55～57頁、青丘社、1995年8月)、「百年河清の辯」(青丘25、56～58頁、青丘社、1996年2月)。

小松 久男

①『革命の中央アジア—あるジャディードの肖像』(中東イスラム世界7、東京大学出版会、1996年1月、290+22頁)、③「二つの都市のタジク人—中央アジアの民族間関係」(原暉之・山内昌之編『スラブの民族』、講座スラブの世界2、250～274頁、弘文堂、1995年7月)、「1905年前後の世界—ロシア・ムスリムの視点から」(歴史学研究会編『強者の倫理—帝国主義の時代』(講座 世界史5、117～146頁、東京大学出版会、1995年10月)、「試練のなかの中央アジア五カ国—交錯するロシアとイスラム世界」(百瀬宏編『下位地域協力と転換期国際関係』、158～175頁、有信堂、1996年1月)、「中央アジアのイスラーム再生—ペレストロイカからタジキスタン内戦へ」(小杉泰編『イスラームに何が起きているのか』、176～196頁、平凡社、1996年1月)、⑥「M.Ä.Äbduräimovning "Bukhara Qushbegisi mähkämäsi ärkhivini organishgä muqäddimä mäqäläsigä sozbashi"」、(Mähkäm Äbduräimov, Ämir Temur vä Tokhtämishkhan, pp.81～84, Tashkent, 1995)、⑦「トルコの民族と文化(イスラーム講座7)」(イスラム世界45、61～72頁、1995年6月)、「中央アジアにおける地域協力の試み」(文部省重点領域研究「スラブ・ユーラシアの変動」合同研究会、1995年11月4日)、「中央アジアの政治情勢と今後の見通し」(中東経済研究所、1996年1月30日)、⑧「イブラヒムと日本」(季刊アジアフォーラム、26～27頁、1995年4月)、「中央アジア等40項目」

(『世界民族問題事典』、平凡社、1995年9月)、「バルトリド(欧米の東洋学19)」(月刊しにか、108～113頁、1995年10月)。

佐伯 富

③「五代後周の王朴—世宗政治の背景」(東方学会創立50周年記念東方学論集、13頁、1996年3月[校正終了])。

佐藤 次高

②『人物世界史3・4 東洋編』(山川出版社、1995年7月、211、213頁)、⑦「歴史から見た中東」(中東調査会「中東理解への手掛り」、1995年7月25日)、「聖者イブラーヒーム伝説の成立」(日本中東学会10周年記念大会、1995年5月7日)、「マクリーズーの写本 Kitāb al-Durar al-Muḍīya について」(1995年度東洋史研究会大会、1995年11月3日)、「イスラーム教徒と水」(第22回栃木県オリエントセミナー、1995年6月10日、要旨:下堅新聞1995年6月13日)、⑧「旅と移動の文明」(聖教新聞、1995年7月22日)、「アジア史の親しみ」(聖教新聞、1995年11月28日)。

酒井 憲二

③「信玄をとりまく文学の世界」(武田氏研究15、14頁、武田氏研究会、1995年5月)、「中世末の同義語一斑」(語文94、日本大学国文学会、26頁、1996年3月)、「岩崎文庫貴重書書誌解題稿—古活字版の部(三)」(東洋文庫書報27、1～40頁(共著)、東洋文庫、1996年3月)、⑦「仮名文字の過去と将来」(調布学園女子短大公開講座、1995年6月17日)。

滋賀 秀三

⑤「西川真子「清末裁判制度の改革」」(法制史研究45、274～275頁、法制史学会、1996年3月)。

斯波 義信

②『総合地域研究—発展の地域性』(共著、「冒頭発言」、文部省科学研究費補助金重点領域研究「総合的地域研究」総括班編、1995年10月、64～71頁)、③「都市用水と管理団体」(比較都市史研究14-2、11～24頁、1995年12月)、⑦「華僑史の諸問題」(サントリー財団夏期学術セミナー、1995年7月28日)、「華僑」(重点領域研究「総合的地域研究」報告、1995年10月21日)、「中国における幣制の展開—宋・元・明時代を中心にして」(日本銀行金融研究所、ワークショップ「わが国幣制の変遷と対外関係」、1996年3月27日)、⑧「南方中国の再生か」(へるめす58、46～55頁、岩波書店、1995年11月)、「歴史学の25人:中国史」(AERA MOOK 10、『歴史学がわ

かる』、44～45頁、朝日新聞社、1995年10月）。

杉山 正明

- ①『クビライの挑戦－モンゴル海上帝国への道』(朝日新聞社、1995年4月、270頁)、
③“New Developments in Mongol Studies: A Brief and Selective Overview”(tr. Neil Katkov、*Journal of Sung-Yuan Studies* 26, 1996.)、⑦“Historical Studies on the Mongol Period in Japan: The State of the Field and Prospects for Further Research”(Premodern China Seminar, Harvard University, April 24, 1995)、“Historical Studies on the Mongol – Yuan Period”(Special Seminar, UCLA, June 30, 1995)、「モンゴル時代史研究におけるふたつの潮流」(中央アジア史学会、1995年11月11日)。

田中 時彦

- ③「直接行動主義の事例研究－五・一五事件の陸軍青年将校と士官候補生の関係－」(東海大学紀要 [政治経済学部] 27、119～160頁、1995年)。

田村 晃一

- ②『千葉県山武郡山武町森台遺跡群の調査(第2次)』(青山学院大学森台遺跡調査団、1995年10月)、③「北東アジアにおける渤海の位置について」(環日本海文化論叢 8、1995年9月)、「咸鏡南・北道地方における渤海遺跡の調査」(『中国の古代都市』、125～148頁、汲古書院、1995年10月)、④「喜子川遺跡第3・4次調査報告」(青山史学 14、1996年3月)。

武田 幸男

- ①『朝鮮の歴史と文化』(共著、放送大学印刷教材、放送大学教育振興会、1996年3月、216頁)、②『末松保和朝鮮史著作集(新羅の政治と社会 上)第1巻』(吉川弘文館、1995年10月、303+12頁)、『末松保和朝鮮史著作集(新羅の政治と社会 下)第2巻』(吉川弘文館、1995年12月、284+13頁)、③「三韓社会における辰王と臣智(下)」(朝鮮文化研究 3、東京大学文学部、1996年3月)、④「[一九九四年の歴史学会] 総説」(史学雑誌 104-5、1995年5月)、⑧「末松保和先生のひとと学問(『末松保和朝鮮史著作集』第1巻、291～302頁、吉川弘文館、1995年10月)、「末松保和先生の新羅史研究と金石文」(『末松保和朝鮮史著作集』第2巻、269～282頁、吉川弘文館、1995年12月)、「末松保和先生と広開土王」(日本歴史 572、58～60頁、吉川弘文館、1996年1月)。

立川 武蔵

- ①『日本仏教の思想』(講談社現代新書 1123、講談社、1995年、227頁)、③“The

Svabhāva in the Madhyamika Philosophy” (Horin, Eko – Haus, Düsseldorf, vol.1,2,, pp.81～92,1995)、[「完成せるヨーガの環」第19章 和訳およびテキスト] (密教図像14、1～33頁、密教図像学会、1995年12月)、⑧[「色即是空」について] (ひかり3、16～47頁、筑紫女学園大学・筑紫女学園短期大学宗教教育部、1995年)、「特別研究メモ、アジア・太平洋地域における民族文化の比較研究第六回シンポジウム「マンダラと自己ーインド的宇宙論ー」」 (民博通信70、44～65頁、1995年)、「欧米の東洋学ージュゼッペ・トゥッチ」 (月刊しにか6-11、102～107頁、大修館書店、1995年11月)。

竺沙 雅章

①『范仲淹』 (中国歴史人物選第5巻、白帝社、1995年10月、258頁)、③「門閥貴族から士大夫官僚へ」 (村井康彦編『公家と武家ーその比較文明的考察ー』、261～277頁、思文閣、1995年10月)、「中国史学在日本」 (蔡毅訳、文史知識1996-2、54～63頁、中華書局、1996年2月)、⑦「中国前近代史学在日本」 (清華大学歴史研究所、1995年9月12日)、⑧「今という時間・年号、世論、宗教統制、漢字の将来」 (AERA1995年5月18日号、6月19日号、7月31日号、9月18日号)、「宮崎先生の追憶」 (東方学91、193～194頁、東方学会、1996年1月)、「宮崎先生の思い出」 (東洋史研究54-4、49頁、1996年3月)。

朽尾 武

③「桃葉歌考ー何限の解釈ー」 (成城文芸151、成城大学文芸学部、1995年7月)、『李嶠百廿詠』における桃詩についての一考察」 (中村璋八博士古稀記念東洋学論集、汲古書院、1996年1月)、「李嶠廿詠注解二 坤儀十首」 (成城文芸153、成城大学文芸学部、1996年1月)。

鳥海 靖

①『日本の近代ー国民国家の形成・発展と挫折』 (放送大学教育振興会、1996年3月、237頁)、②『地図対照・新日本史年表』 (共編、三省堂、1995年4月、280頁)、⑦「近代国家形成過程における立憲思想の受容」 (大韓民国教育家日本招聘会儀、国際教育情報センター、1995年6月24日)、「国際化の中の歴史理解と歴史学習」 (福島県小中学校教員経験者研修会、福島県教育センター、1995年7月27日)、「日本の見た西欧と西欧の見た日本ー明治立憲君主制形成過程の相互認識」 (第93回史学会大会、1995年11月11日、要旨：史学雑誌105-12、87～88頁、1995年12月)、⑧「戦後五十年と現在の課題」 (『みんなで生きた戦後五十年』、162～163頁、学校図書、1995年6月)、「伯爵後藤象二郎・解説」 (大町桂月『伯爵後藤象二郎』復刻版、1～5頁、大空社、1995年6月)、“Japan in Modern History ; Japanese School Textbooks、High School – Introduction” (pp.9～16、International Society for Educational Information、November

1995.)、「『品川彌二郎関係文書』第3巻」(共同史料校訂、尚友倶楽部、1995年12月、478頁)。

中嶋 敏

③「宋進士題名録と同年小録・追論」(汲古27、58～61頁、汲古書院、1995年6月)、「宝祐登科録における宗室」(東洋研究116、59～72頁、大東文化大学東洋研究所、1995年9月)。

永積 洋子

③「十七世紀後半の日本とオランダ」(ヨーゼフ・クライナー編『ケンペルのみた日本』、NHK ブックス、101～110頁、日本放送出版協会、1996年3月)、⑦「ケンペルとティチング：蘭学に与えた影響」(平成7年度江戸東京自由大学、1995年10月8日、要旨：『平成7年度江戸東京自由大学』、40～42頁)、「田沼時代とティチング」(日蘭学会総会、1995年11月26日、要旨：日蘭学会通信、平成7年度No.4、4～5頁)、「ナポレオン戦争の日本に及ぼした影響」(洋学史学会大会シンポジウム、武蔵工業大学、1995年12月3日)、“Ayudhya and Japan — Embassies and Trade in the 17th Century.” (An International Workshop on Ayudhya and Asia、December 18, 1995)、「日本銀行金融研究所ワークショップ『わが国幣制と対外関係』」(パネリスト、日本銀行金融研究所、1996年3月2日)。

西田 龍雄

①『文字・最真一文字のエッセンスをめぐる3つの対話』(共著、三省堂、1995年5月、222頁)、③「西夏」(柴田武等編『世界ことわざ大事典』、大修館書店、1102～1111頁)、「東アジアの文字」(国際文化研究10、PP.18～24、全国市町村国際文化研修所、1996年3月)、⑤「林英津著『夏譯<<孫子兵法>>研究』上冊、下冊」(東洋学報77-1・2、035～044頁、東洋文庫、1995年10月)、「史金波・黄振華・聶鴻音著『類林研究』」(東洋学報77-1・2、045～054頁、1995年10月)、⑦「西夏文字について」(文字文化研究所、1995年5月28日)、「西夏文の特性和西夏語の声調変化—西夏文字新考」(首届西夏学国際研討会、於銀川(寧夏回族自治区)、1995年8月24日)、「東アジアの言語と文字」(京都国際文化協会、1995年9月19日)。

原 實

③“A Note on the Whiteness of Laughter.” (*Sauhrdyamaṅgalam*, Studies in Honour of Siegfried Lienhard on his 70th Birthday, edited by M. Juntunen, W. L. Smith, Carl Suneson. The Association of Oriental Studies, pp.141-159, Stockholm 1995.), “A Note on the Phrase *Kṛśo dhamani-saṃtana*,” (*Asiatische Studies/Etudes Asiatiques, Revue de la Société Suisse*

— Asie XLIX — 2, pp.377~389, 1995.), "A Note on the Sanskrit Word Svastha, (*Journal of the European Ayurvedic Society* — 4, pp.55~87, Reinbek 1995.), 「仏誕伝説の背景」(駒沢大学仏教学部論集 26, pp.350~334, 1995年10月)、「Ānṛśams (y) a」(勝呂信静博士古稀記念論文集, pp.141~155, 山喜房、1996年3月)、⑤「O. von Hinüber, "The oldest Pali Manuscript, (Four Folios of the Vinaya — piṭaka from the National Archives, Kathmandu) (Untersuchungen zur Sprachgeschichte und Handschriftenkunde des Pali II), Stuttgart 1991 in *Indo — iranian Journal* 38, pp.68~71.), 「O. von Hinüber, *Der Beginn der Schrift und frühe Schriftlichkeit in Indien* (Akademie der Wissenschaften und der Literatur (Mainz), Stuttgart, 1989)」in *Indo-iranian Journal* 38, pp.71~76)、「海外学術情報」(法華文化研究 21, pp.1~4)、「Bruch M. Sullivan, *Kṛṣṇa Dvaipāyana Vyāsa and the Mahābhārata*: New Interpretation, E. J. Brill、Leiden、1990」(東洋学報 77-1・2, pp.055~059)、「*Essays on the Mahābhārata*, edited by Arvind Sharma, E. J. Brill, Leiden, 1991」(東洋学報 77-3・4, pp.077~082)、⑦"The Losing of tapas," (*International Conference of History of Religions*, Mexico City, 7 August 1995)、「古典インドの世界」(放送大学特別講義<ラジオ>、1995年10月30日)、「The cnocept of *dharma* in Hindu Literature" (*International Buddhist Conference at the Korean Institute for Buddhist Studies* Seoul, 18 November 1995)、「Ānṛṇya," (*Colloque interanational pour le centenaire de la naissance de Louis Renou* (1896 — 1966), Université de Paris — 3 Sorbonne nouvelle, 26 janvier 1996)。

古屋 昭弘

③「『正字通』版本及作者考」(中国語文 1995年第4期、北京商務印書館、1995年7月)、「韻書中所見吳音の性質」(新亞學術叢刊 11 — 吳語研究、香港中文大学、1995年)、「張自烈年譜稿(遺民篇)」(早稲田大学大学院文学研究科紀要 41 — 2、1996年2月)、⑤「葉祥苓『蘇州方言詞典』」(中国の方言と地域文化 3、京都大学、1995年4月)、⑧「魏際瑞の『切字訓』(資料紹介)」(中国語学研究開篇 13、好文出版、1995年12月)。

本庄 比佐子

③「中国革命への道」(中嶋嶺雄編『中国現代史 [新版]』、57~80頁、有斐閣、1996年3月)、④「中国ソビエト運動の研究」(野沢豊編『日本の中華民国史研究』、69~83頁、汲古書院、1995年9月)、⑤「衛藤瀋吉、ハロルド・Z・シフリン編『中国の共和革命』」(アジア研究 42 — 1、109~116頁、1995年12月)、⑧「東洋文庫紹介」(国立国父紀念館館訊 6、26~30頁、1995年9月)。

宮崎 修多

- ③「南橋墓誌」(雅俗 3、74～86頁、雅俗の会、1996年1月)、④「平成六年度国語国文学会の展望 近世・漢詩文」(文学・語学 149、12～13頁、全国大学国語国文学会、1995年12月)。

柳田 征司

- ③「全国現代諸方言のアクセント」(愛媛国語学研究1、1～41頁、愛媛国語学研究会、1995年8月)、「東京方言における動詞・形容詞の活用形のアクセント」(鎌倉時代語研究 18、39～57頁、鎌倉時代語研究会、1995年8月)、「四音節名詞における東京式アクセント」(『築島裕博士古稀記念国語学論集』、821～842頁、汲古書院、1995年10月)、「モーラ方言・シラビーム方言分離の原因」(愛媛国文と教育 28、16～26頁、愛媛大学教育学部国語国文学会、1995年11月)、「中世語から近世語へ」(久保田淳ほか編『岩波講座日本文学史7 変革期の文学』、313～336頁、岩波書店、1996年1月)、「四音節名詞における京阪アクセントと現代東京アクセント」(愛媛大学教育学部紀要第2部 人文・社会科学 28-2、1～27頁、1996年2月)、「現代全国諸方言のアクセント(続)」(愛媛国語学研究 2、1～17頁、1996年3月)。

柳田 節子

- ①『宋元社会経済史研究』(創文社、1995年10月、11+471+13頁)、③「宋代郷原体例考」(『宋代の規範と習俗』、汲古書院、91～117頁、1995年10月)、⑤「島居一康著『宋代税制史研究』」(社会経済史学 60-6、100～102頁、1995年6月)、⑧「旗田先生と私」(『追悼・旗田巍先生』、旗田先生追悼集刊行会、1995年6月)、『家永三郎対談集』(民衆社、1995年7月)、「“英霊”のおかげか」(歴史評論一特集・戦後50年に立って-544、1995年8月)、「不戦決議をめぐって」(『歴史学研究月報一特集・随想、戦後50年-』428、1995年8月)、「ソウルの原爆展」(非核 23、1995年12月)、「宮崎先生と私」(東洋史研究 54-4、宮崎市定博士追悼録、71頁、1996年3月)。

山内 弘一

- ③「李朝時代の虎患について」(上智史学 40、23～63頁、上智大学、1995年11月)、⑦「朴珪壽と「禮義之邦」」(上智史学会月例会、1995年5月27日、要旨：上智史学 40、187～188頁)、「洪大客の華夷論について」(上智史学会大会、1995年11月26日)。

山崎 元一

- ③「古代インドの部族貨幣 (Tribal Coins) について」(国学院大学紀要 34、1～24頁、国学院大学、1996年3月)、⑤「白井駿著『ヒンドゥ伝統の刑法哲学ーバガヴァッド・

ギーターを史料として』、『インド民間伝承の刑法思想』(法制史研究45、275～277頁、法制史学会、1996年3月)。

山根 幸夫

②『新編日本現存明代地方志目録』(私家版、1995年5月、58頁)、『近代日中関係史研究入門』(共編、周啓乾監訳、金禾出版社、台湾、1995年6月、488頁)、『日中の架け橋—中国事情紹介の40年』(小林実弥著・山根幸夫編、私家版、1995年8月、125頁)、『中山八郎明清史論集』(共編、汲古書院、1995年11月、524頁)、③「東川徳治と《典海》編集の経緯」(汲古27、69～74頁、汲古書院、1995年6月)、「明代《路程書》考」(『明清史論集』、黄山書社、136～139頁、1995年9月)、「我的戦後日本観」(中国研究1—10、46～47頁、中国研究月刊雑誌社、1996年1月)、④「〈満洲〉建国大学に関する書誌」(近代中国研究彙報18、117～128頁、東洋文庫、1996年3月)、「1995年日本中国近代史研究成果三種」(中国研究1—12、53頁、中国研究月刊雑誌社、1996年3月)、⑤「趙中男策劃『明代帝王系列伝記』」(東洋学報77—1・2、142～148頁、東洋文庫、1995年10月)、「Taylor Farmer & Ann Walter ed.; “Ming History — An Introductory Guide to Research”」(東洋学報77—1・2、149～156頁、東洋文庫、1995年10月)、「南海大学明清史研究室編『清王朝的建立階層及其他』」(東洋学報77・3・4、73～79頁、東洋文庫、1996年3月)、⑦「日本の漢籍図書館について(1)、(2)」(南開大学歴史研究所特別講学、1995年8月7～8日)、「明の太祖と《宝訓》」(第6届明史国際学術討論会、鳳陽賓館、1995年8月12日)、⑧「1994年明代史論著目録」(明代史研究23、82～85頁、明代史研究会、1995年4月)、「第8回明清史夏合宿」(明代史研究23、59～62頁、明代史研究会、1995年4月)、「小林実弥『日中の架け橋』補記」(『日中の架け橋』、97～102頁、私家版、1995年8月)、「小林実弥『日中の架け橋』年表」(『日中の架け橋』、107～125頁、私家版、1995年8月)、「編集後記」(汲古27、87～88頁、汲古書院、1995年6月)、「編集後記」(汲古28、32頁、汲古書院、1995年12月)、「周啓乾監訳『近代日中関係史研究入門』中文版序言」(1頁、金禾出版社、台湾、1995年6月)、「『中山八郎明清史論集』編集後記」(『明清史論集』、522～524頁、汲古書院、1995年11月)。

渡邊 宏

⑤「パチカン図書館所蔵邪蘇会士中国刊行書目(B.A.V.Racc.Gen.Or.s13) ノート—付B.N.de Paris、nouveau fonds 2835」(研究年報1995年30号、19～36頁、東洋大学アジア・アフリカ文化研究所、1996年3月)、「追補：③「職方外紀の五巻本と六巻本」(東洋文庫書報25、38～68頁、東洋文庫、1994年2月))。

III 業 務 報 告

1. 総 務 報 告

i 財団法人東洋文庫理事会・評議員会の開催

理 事 会

- 第294回 開催日 平成7年 6月6日(火曜日)
出席者 北村 甫, 石井米雄, 岩崎寛彌, 河野六郎, 佐藤次高
斯波義信, 林 健太郎, 山本達郎, 東 陽太郎
委任状 市古宙三, 木田 宏, 田中正俊, 中根千枝, 中村俊男, 護 雅夫
- 第295回 開催日 平成7年 6月6日(火曜日)
出席者 北村 甫, 石井米雄, 岩崎寛彌, 河野六郎, 佐藤次高
斯波義信, 林 健太郎, 山本達郎, 東 陽太郎
委任状 市古宙三, 木田 宏, 田中正俊, 中根千枝, 中村俊男, 護 雅夫
- 第296回 開催日 平成7年 12月12日(火曜日)
出席者 北村 甫, 石井米雄, 岩崎寛彌, 木田 宏, 佐藤次高, 斯波義信
中根千枝, 中村俊男, 林 健太郎, 東 陽太郎
委任状 河野六郎, 田中正俊, 護 雅夫, 山本達郎
- 第297回 開催日 平成8年 3月19日(火曜日)臨時持回り
出席者 北村 甫, 石井米雄, 岩崎寛彌, 河野六郎, 木田 宏, 佐藤次高
斯波義信, 田中正俊, 中根千枝, 中村俊男, 林 健太郎
護 雅夫, 山本達郎

評 議 員 会

- 第134回 開催日 平成7年6月6日(火曜日)
出席者 岡野 澄, 神田信夫, 関野 雄, 中嶋 敏
委任状 井村裕夫, 奥島孝康, 田部文一郎, 鳥居泰彦, 中田乙一
長谷川周重, 日比野丈夫, 前田充明, 吉川弘之

ii 東洋学連絡委員会の開催

- 前 期 開催日 平成 7 年 5 月 2 3 日（火曜日）
 出席者 北村 甫（委員長），尾崎 康，竺沙雅章，中嶋 敏
 西田龍雄，本田實信，山本達郎
 議 題 1．平成 6 年度財団法人東洋文庫事業報告について
 2．平成 7 年度財団法人東洋文庫事業計画について
 3．その他
- 後 期 開催日 平成 7 年 1 1 月 2 8 日（火曜日）
 出席者 北村 甫（委員長），入矢義高，江上波夫，尾崎 康，竺沙雅章
 中嶋 敏，西田龍雄，山本達郎
 議 題 1．平成 7 年度財団法人東洋文庫事業中間報告について
 2．平成 8 年度財団法人東洋文庫事業計画案について
 3．その他

2. 人 事 報 告

i. 役員異動

年月日	役 職 名	氏 名	区 分	備 考
7.6.7	理 事	市 古 宙 三	退 任	
7.12.13	〃	東 陽 太 郎	〃	

ii. 委員異動

年月日	役 職 名	氏 名	区 分	備 考
8.3.31	東洋学連絡 委員会委員	佐 藤 長	退 任	

iii. 職員異動

年月日	役職名	氏名	区分	備考
7. 4. 1	研究員（奨励）	江 川 ひかり	委 嘱	
〃	〃	川 口 琢 司	〃	
〃	〃	山 口 洋	〃	
7. 4. 30	参 事	広 木 節 巳	退 職	
7.12. 1	研究員（兼任）	松 丸 道 雄	委 嘱	
7.12.13	総務部長	東 陽 太 郎	退 任	
〃	〃	秋 山 哲 児	就 任	
8. 3. 31	文 庫 長	吉 久 明 宏	退 任	
〃	主 査	竹之内 信 子	退 職	
〃	〃	広 瀬 洋 子	〃	
〃	司 書	中善寺 慎	〃	国会図書館へ就職予定
〃	〃	辺 見 由起子	〃	〃

Ⅳ 役 職 員 名 簿

平成 8 年 3 月 3 1 日現在の財団法人東洋文庫の役職員は、以下のとおりである。

1. 役 員

役 職 名	氏 名	現 職
理 事 長	北 村 甫	麗澤大学教授 東京外国語大学名誉教授
理 事	石 井 米 雄	上智大学教授 京都大学名誉教授
〃	岩 崎 寛 彌	東山農事株式会社代表取締役社長
〃	木 田 宏	財団法人新国立劇場運営財団理事長
〃	河 野 六 郎	日本学士院会員 東京教育大学名誉教授
〃	佐 藤 次 高	財団法人東洋文庫研究部長 東京大学教授
〃	斯 波 義 信	財団法人東洋文庫図書部長 国際基督教大学教授
〃	田 中 正 俊	東京大学名誉教授
〃	中 根 千 枝	財団法人民族学振興会理事長 東京大学名誉教授
〃	中 村 俊 男	株式会社三菱銀行相談役
〃	林 健太郎	東京大学名誉教授
〃	護 雅 夫	日本学士院会員 東京大学名誉教授
〃	山 本 達 郎	日本学士院会員 東京大学名誉教授
監 事	池 原 正 道	日本コムシス株式会社監査役
〃	白 石 元 良	三菱金曜会事務局長

役 職 名	氏 名	現 職
評 議 員 〃	井 村 裕 夫 岡 野 澄	京都大学長 東京工業高等専門学校名誉教授 財団法人東洋文庫附置ユネスコ 東アジア文化研究センター顧問
〃	奥 島 孝 康	早稲田大学総長
〃	神 田 信 夫	明治大学名誉教授
〃	関 野 雄	文化財保護審議会専門委員 東京大学名誉教授
〃	田 部 文一郎	三菱商事株式会社相談役
〃	鳥 居 泰 彦	慶応義塾長
〃	中 嶋 敏	東京教育大学名誉教授
〃	中 田 乙 一	三菱地所株式会社相談役
〃	長谷川 周 重	住友化学工業株式会社相談役
〃	日比野 丈 夫	大手前女子大学長 京都大学名誉教授
〃	前 田 充 明	城西大学名誉教授 財団法人東洋文庫附置ユネスコ 東アジア文化研究センター顧問
〃	吉 川 弘 之	東京大学長

2. 東洋学連絡委員会委員

役 職 名	氏 名	現 職
委 員 長	北 村 甫	財団法人東洋文庫理事長 麗澤大学教授
委 員	入 矢 義 高	花園大学客員教授 名古屋大学名誉教授
〃	江 上 波 夫	古代オリエント博物館長 東京大学名誉教授
〃	尾 崎 康	慶應義塾大学附属研究所斯道文庫教授
〃	佐 藤 長	京都大学名誉教授
〃	斯 波 義 信	国際基督教大学教授
〃	竺 沙 雅 章	大谷大学教授 京都大学名誉教授
〃	中 嶋 敏	東京教育大学名誉教授
〃	西 田 龍 雄	京都大学名誉教授
〃	日比野 丈 夫	大手前女子大学長 京都大学名誉教授
〃	本 田 實 信	京都大学名誉教授
〃	山 本 達 郎	日本学士院会員 東京大学名誉教授

3. 名誉研究員

氏 名	現 職
W. T. デ・パリイ	コロンビア大学教授
J. ジエルネ	第7パリ大学教授 フランス国立高等研究院研究指導員
H. フランケ	ミュンヘン大学教授
L. ペテック	ローマ大学教授

4. 職 員

(平成8年3月31日現在)

部 名	職 名	氏 名	現 職
研究部	部 長	佐 藤 次 高	東京大学教授
	研究員 (兼任)	荒 松 雄	東京大学名誉教授
	〃	池 田 温	創価大学教授
	〃	池 端 雪 浦	東京外国語大学アジア・アフリカ 言語文化研究所教授
	〃	石 井 米 雄	上智大学教授
	〃	石 塚 晴 通	北海道大学教授
	〃	石 橋 崇 雄	国土館大学教授
	〃	市 古 宙 三	お茶の水女子大学名誉教授
	〃	上 野 英 二	成城大学教授
	〃	宇 都 木 章	青山学院大学名誉教授
	〃	梅 田 博 之	麗澤大学教授
	〃	梅 村 坦	中央大学教授
	〃	海 野 一 隆	大阪大学名誉教授
	〃	大 江 孝 男	東京外国語大学アジア・アフリカ 言語文化研究所名誉教授
	〃	太 田 幸 男	東京学芸大学教授
	〃	小 名 康 之	青山学院大学教授
	〃	越 智 重 明	久留米大学客員教授
	〃	岡 田 英 弘	東京外国語大学名誉教授
	〃	風 間 喜代三	法政大学教授
	〃	片 山 章 雄	東海大学助教授
	〃	加 藤 直 人	日本大学助教授
	〃	川 崎 信 定	筑波大学教授
	〃	神 田 信 夫	明治大学名誉教授
	〃	菊 池 英 夫	中央大学教授
	〃	北 村 甫	麗澤大学教授
	〃	草 野 靖	福岡大学教授
	〃	C. A. ダニエルス	東京外国語大学アジア・アフリカ 言語文化研究所助教授
	〃	小 松 久 男	東京大学教授
	〃	河 野 六 郎	東京教育大学名誉教授

部 名	職 名	氏 名	現 職
	研究員（兼任）	後 藤 明	東京大学東洋文化研究所教授
	〃	後 藤 均 平	立教大学名誉教授
	〃	佐 伯 富	京都大学名誉教授
	〃	佐 竹 昭 廣	国文学研究資料館々長
	〃	酒 井 憲 二	調布学園女子短期大学学長
	〃	滋 賀 秀 三	東京大学名誉教授
	〃	薮 勇 造	東京大学教授
	〃	斯 波 義 信	国際基督教大学教授
	〃	志 茂 碩 敏	国立国会図書館支部東洋文庫 司書
	〃	清 水 宏 祐	九州大学教授
	〃	杉 山 正 明	京都大学教授
	〃	鈴 木 立 子	愛知大学助教授
	〃	関 野 雄	東京大学名誉教授
	〃	田 中 時 彦	東海大学名誉教授
	〃	田 中 正 俊	東京大学名誉教授
	〃	武 田 幸 男	名古屋市立大学教授
	〃	立 川 武 蔵	国立民族学博物館教授
	〃	田 村 晃 一	青山学院大学教授
	〃	千 葉 昶 長	桐朋学園大学理事長
	〃	竺 沙 雅 章	大谷大学教授
	〃	鶴 見 尚 弘	横浜国立大学教授
	〃	朽 尾 武	成城大学教授
	〃	土 肥 義 和	國学院大学教授
	〃	鳥 海 靖	中央大学教授
	〃	中 嶋 敏	東京教育大学名誉教授
	〃	永 積 洋 子	城西大学教授
	〃	永 田 雄 三	明治大学教授
	〃	中 見 立 夫	東京外国語大学アジア・アフリカ 言語文化研究所助教授
	〃	西 田 龍 雄	京都大学名誉教授
	〃	八 尾 師 誠	東京外国語大学アジア・アフリカ 言語文化研究所教授
	〃	花 田 宇 秋	明治学院大学教授

部 名	職 名	氏 名	現 職
	研究員（兼任）	林 佳世子	東京外国語大学助教授
	〃	原 實	東京大学名誉教授
	〃	藤 枝 晃	京都大学名誉教授
	〃	古 屋 昭 弘	早稲田大学教授
	〃	星 實千代	東京外国語大学アジア・アフリカ 言語文化研究所研究員
	〃	本 田 實 信	京都大学名誉教授
	〃	松 涛 誠 達	大正大学教授
	〃	松 丸 道 雄	東京大学名誉教授
	〃	松 村 潤	日本大学名誉教授
	〃	三 浦 徹	お茶の水女子大学助教授
	〃	三根谷 徹	東京大学名誉教授
	〃	御 牧 克 己	京都大学教授
	〃	宮 崎 修 多	成城大学助教授
	〃	森 岡 康	元国立国会図書館支部東洋文庫司書
	〃	護 雅 夫	東京大学名誉教授
	〃	矢 澤 利 彦	埼玉大学名誉教授
	〃	柳 田 征 司	愛媛大学教授
	〃	柳 田 節 子	元学習院大学教授
	〃	山 内 弘 一	上智大学助教授
	〃	山 口 瑞 鳳	東京大学名誉教授
	〃	山 口 謡 司	イギリス・ケンブリッジ大学助手
	〃	山 崎 元 一	国学院大学教授
	〃	山 根 幸 夫	東京女子大学名誉教授
	〃	山 本 達 郎	東京大学名誉教授
	〃	渡 辺 紘 良	独協医科大学教授
	〃	渡 辺 宏	東洋大学アジア・アフリカ 研究所研究員
	〃	和 田 博 徳	創価大学教授
	研究員（専任）	福 田 洋 一	
	〃	本 庄 比佐子	
	〃	松 本 明	

部 名	職 名	氏 名
図書部	部 長	斯 波 義 信
	東洋文庫長	吉 久 明 宏※
	文庫長補佐	小 山 勲※
	主 査	竹之内 信 子※、広 瀬 洋 子※
	副 主 査	池 田 直 人※、志 茂 碩 敏※
	事務主任	小 林 輝 男※、西 薊 一 男※
	司 書	桜 井 徹、中善寺 慎、辺 見 由起子
総務部	部 長	秋 山 哲 兒
	課 長	光 田 憲 雄
	会 計 係 長	金 子 祐 子
	参 事	中 沢 元 幸、橘 伸 子、小 松 眞 理
		吉 田 男佐武、長谷川 茂 広

(※印は国立国会図書館支部東洋文庫職員)

5. 臨時職員

部 名	氏 名
研究部	五十嵐麻理世、石川重雄、石川美恵、伊東佐代子、伊藤千賀子 岩本篤志、王 詩倫、王 瑞来、岸 綾乃、黒岩 高、現銀谷史朗 佐藤雅道、柴谷果織、下山裕子、菅原 純、鈴木直子、龍野香代子 中林 豊、中町信孝、野村正次郎、橋本雄一、原 朝子、福田立子 福田裕美子、帆刈浩之、前田弘毅、松戸清裕、宮岡孝尚、宮寺洋子 村上かおり、安田震一、吉田健翁、渡辺日日
図書部	安宅真弓、岩永和子、岩見 隆、岡田泰介、金沢悦男、清水一枝 関 喜房、高木雅弘、高瀬奈津子、高田ひさ子、高田まゆみ 竹越 孝、外川和雅、荷見守義、深見和子、古田幸三、目黒 輝 山村義照、マントール水野美奈子、吉村かずみ、呂 静
総務部	豊田典子

V 財団法人東洋文庫附置 ユネスコ東アジア文化研究センターの事業

【概 要】 東アジアを中心とするアジア諸地域の人文・社会科学の分野の研究に関するインフォメーション・センターとしての機能をはたし、研究情報の交換、研究者の交流の促進、及び研究成果の普及を図る。

1. ユネスコ協力活動

【概 要】 ユネスコ本部の企画・運営する事業に対して日本における機関として積極的に協力し、関連する諸事業を推進する。

【事業内容】

(1) 「中央アジア文明史」編集協力

ユネスコ本部の編集にかかる「中央アジア文明史」シリーズについて、本部から編集委員の委嘱を受けた梅村坦中央大学教授を中心として組織した「中央アジア文明史編集協力委員会」を通じて、同シリーズ第5巻・第6巻（16世紀－20世紀）の編集に協力した。ユネスコ本部の招請により、梅村坦氏が7月25日－29日に北京で開催された「中央アジア文明史刊行準備国際専門委員会第5回会議」に出席し、同シリーズの編集に参画した。

専門委員：梅村 坦、久保一之、小松久男、新免 康、中見立夫、羽田 正、
濱田正美、堀 直、森川哲雄

委 員 会： 6月19日 国際専門委員会の開催に備えて編集方針について検討した。

10月27日 国際専門委員会の成果に基づきさらに編集を進めた。

(2) 参加事業計画

ユネスコ本部の参加事業計画 UNESCO Participation Programme 1994 - 1995 に「Asian Research Trends の編集・出版」事業をもって参加した。

(3) ユネスコ・フェローの受入れ

ユネスコ本部の依頼によりユネスコ・フェローの研究者を下記の通り受入れ、日本国内におけるその調査研究に協力した。

シュリヴァスタヴァ インド内務省研究官

(Srivastava, Anil Kumar Junior Scientific Officer, Bureau of Police Research and Development, Ministry of Home Affairs, India)

研究主題：シルクロード史上の貨幣

2. 学術情報活動－アジア・北アフリカ人文・社会科学関係－

【概 要】 アジア・北アフリカ諸地域の文化・社会の研究に関する情報を組織的かつ継続的に収集・交換し、その情報を公開することによって、国内外の諸研究機関及び研究者の間の交流・協力を促進する。

2－1. Asian Research Trends の編集・出版

【概 要】 アジア・北アフリカ諸地域を対象とする人文・社会科学の研究情報を全世界に向けて提供する。

【事業内容】

英文の年刊誌 “Asian Research Trends : A Humanities and Social Science Review” の編集・出版を行なった。本年度は No.6 (1996) を刊行し、アジア諸国におけるアジア研究・自国研究を中心に掲載、あわせて下記「国外研究情報の収集」(2-2 (2)) において訪問した関係研究機関の調査報告、下記「海外専門家の招聘」(2-2 (3)) による招聘研究者の報告等を掲載した。A 5 判変型 (1,500 部)。

また、同誌 No.4 の増刷 (300 部) を行なった。

専門委員：池端雪浦、梅村 坦、佐藤次高、中里成章、濱下武志、山内弘一、
山崎元一

委 員 会：9 月 26 日 No.7 以降の編集方針について検討し、執筆依頼の人選を行なった。

2－2. 国内外研究情報の収集

【概 要】 国内外のアジア・北アフリカ研究機関及び研究者の活動に関する情報を収集し、国際的な学术交流のための基礎資料とする。

【事業内容】

(1) 国内研究情報の収集

いわゆる「東洋学」の関連研究分野における研究機関のネットワーク形成を推進するため、主要なアジア研究機関・学会、及び日本学術会議等との間に、相互の訪問・通

信等による研究情報の交換を行なった。また、研究機関が発行する要覧・紀要等を収集した。

(2) 国外研究情報の収集

(2) - A. 国外研究機関の訪問調査

本年度の調査対象である東北アジア地域の研究機関・研究状況等について資料を収集し、当該地域に所在するアジア関係研究機関の訪問調査を実施した。その対象国・派遣調査員・調査期間は下記の通りである。

中華人民共和国：

8月4日－8月13日

大井 剛（センター調査外事室長）

藤井和夫（センター運営委員、日野市教育委員会 生涯教育課 文化財係長）

本調査は、東北アジア考古学研究会との協力のもとに、同会会員岡内三眞早稲田大学教授を団長とする調査団に上記調査員が参加して行なわれ、黒龍江省の機関を訪問した。なお、調査旅費は調査員の私費である。

大韓民国：大井 剛（前 掲）

11月8日－11月15日

藤井和夫（前 掲）

11月5日－11月16日

本調査は、同国に関する継続調査の一環として行なわれ、全羅北道及びソウル所在の機関を訪問した。両名は、調査期間中に開催された韓仏学術セミナーにオブザーバーとして出席した（下記2 - 2 (2) - D 参照）。

大韓民国：藤井和夫（前 掲）

2月23日－2月26日

本調査は、同国に関する継続調査の一環として行なわれ、ソウル所在の機関を訪問した。

(2) - B. 講演会の開催

来日中の外国人研究者を招いて講演会を開催し、諸外国の研究情報を得、国内研究者との交流を図った。

11月24日（金）

講 師：ラーリン ロシア科学アカデミー極東支部歴史考古民族研究所所長
(Larin, Victor L. Director, Institute of History, Archaeology and
Ethnography, Far Eastern Branch, Russian Academy of Sciences)

主 題：ウラジオストクにおける東北アジア研究（英語）

会 場：東洋文庫講演室

12月5日（火）

講 師：姜 相 順 中国遼寧省瀋陽故宮博物院研究員

主 題：瀋陽故宮博物院の活動現況（中国語）

会 場： 東洋文庫会議室

12月5日（火）

講 師： 袁 閻 琨 中国遼寧人民出版社副総輯

主 題： 清朝宮廷シャマン祭祀について（中国語）

会 場： 東洋文庫会議室

12月16日（土）

講 師： 方 起 東 中国吉林省文物考古研究所所長

主 題： 高句麗古墓をめぐる諸問題（中国語）

会 場： アピオ大阪（大阪市立）大阪市中央区森ノ宮

共 催： 東アジア古代史・考古学研究会交流会

3月18日（月）

講 師： 田 広 金 中国内モンゴル文物考古研究所研究員、前所長

主 題： 中国長城地帯における農耕－牧畜－遊牧の発展モデル（中国語）

会 場： 東洋文庫講演室

共 催： 草原考古研究会

(2) - C. 外国人研究者、各種専門家に対する便宜供与

本年度1 - (3) 及び2 - 2 (2) - B, 2 - 2 (3) に記載の外国人研究者以外に、センターを訪れ、またはセンターが情報提供等の便宜供与を行なった外国人研究者は、下記の通りである。

De Touchet, Elisabeth (Ms)	東京大学大学院博士課程（経済学）；France
Rezrazi El-Mostafa	東京大学大学院博士課程（地域研究）；Morocco
Kurøy, Hallvard Kåre	Chairman, Samarbeidsutvalget for Burma (Norwegian Burma Council), Oslo, Norway
Ibrahim H. Al-Quayid	Deputy Director, Institute of Languages and Translation, King Saud University, Riyadh, Saudi Arabia
Rotermund, Hartmut O.	Professeur, Section des Sciences Religieuses, École Pratique des Hautes Études, Paris, France
王 俠	吉林省文物考古研究所副所長、長春、中国
魏 存 成	吉林大学考古学系教授、長春、中国
方 学 鳳	延辺大学歴史系教授、渤海史研究所所長、延吉、中国
李 強	延辺朝鮮族自治州文物管理委員会辦公室主任、延吉、 中国
宋 成 有	北京大学歴史系教授、東北亜研究所所長、北京、中国
鄒 逸 麟	復旦大学歴史地理研究所研究員、上海、中国
Lombard, Denys	Directeur, École française d'Extrême-Orient (EFEO),

	Paris, France
Bouchy, Anne (Ms)	Membre scientifique, EFEO, Paris, France
Beillevaire, Patrick	Chargé de Recherche, Centre de Recherches sur le Japon Contemporain, Centre National de la Recherche Scientifique (CNRS), Paris, France
Mormanne, Thierry	Chercheur, Maison Franco-Japonaise, Tokyo
Galego Montano, José Manuel	Director, Center for Studies on Asia and Oceania, Havana, Cuba
Dé, Barun	Director, Maulana Abul Kalam Azad Institute of Asian Studies, Calcutta, India
Azizov, Siroj Sh.	日本国際問題研究所客員研究員; Institute of Strategic and Regional Investigations, Tashkent, Uzbekistan
続 三 義	大東文化大学客員教授; 北京外語学院副教授、北京、 中国
郭 素 新	内蒙古文物考古研究所研究員、呼和浩特、中国
郭 治 中	内蒙古文物考古研究所副研究員、呼和浩特、中国
漆 紅	東京大学大学院学生 (美術史学)
Diokno, Maria Serena (Ms)	Director, Third World Studies Center; Associate Dean, Dept. of History, College of Social Sciences and Philosophy, Univ. of the Philippines

(2) - D. フランス国立極東学院東京支部との協力

財団法人東洋文庫内に平成6年4月設置されたフランス国立極東学院東京支部との交流を促進した。東京支部長は、同学院客員研究員（フランス国立学術研究センター研究員）ジャン＝ピエール・ベルトン氏である。

Berthon, Jean-Pierre Chercheur associé, Section de Tôkyô, École française
d'Extrême-Orient (EFEO)

Chargé de Recherche, Centre National de la Recherche Scientifique (CNRS), Paris, France

同学院（本部パリ）が11月13、14日に韓国ソウルにおいて高麗大学校亜細亜問題研究所と共催した学術セミナー「東洋学に関する韓仏学術協力」に、センターからオブザーバー2名（上記（2-2（2）-Aに掲出）を派遣した。

(3) 海外専門家の招聘

学術交流を目的として海外の専門家を下記の通り招聘した。

方 起 東 中国吉林省文物考古研究所所長

12月9日－23日

劉 景 文 同研究所研究室主任

同 上

本事業において、上記両名は北陸・中部・近畿地方の考古遺跡等を調査し、各地の関係機関への訪問、研究者との交流、中国文化に関する講演を行なった。本事業は石川県立埋蔵文化財センターとの協力のもとに行なわれ、また本事業の実施に際し有限会社多摩アセット（東京都町田市）の援助を受けた。

(4) 在日漢籍所在調査

日本における漢籍蒐集の現状の調査を進めるため、国内所在の文庫・図書館の調査を継続した。

2-3. 文献目録の編集・出版

【概要】 上記「国内外研究情報の収集」(2-2)において収集した学術情報をコンピュータ入力してデータベース化し、bibliographyとして編集する。収集データは、英文出版物およびコンピュータネットワークにより公開して、内外の研究者・研究機関に提供する。

【事業内容】

(1) 「明治初期翻訳文献目録」の編集

同書の編集のための調査を行ない、目録カードの点検整備を進めた。本書は、日本の明治時代初期に翻訳・翻案された外国文献について調査し、その原典と翻訳出版とを明らかにした目録データベースである。編集にあたり、当センターがかつて実施した調査の資料をデータとする。

(2) 「日本における中央アジア関係研究文献目録」続篇の編集

同目録(1879年-1987年分収載、1988年刊行)に続く同目録続篇(1987年以降分収載)の編集を行なった。

(3) コンピュータ通信による情報提供

コンピュータ通信をメディアとして「日本における中央アジア関係研究文献目録」及び「日本における中東・イスラーム研究文献目録」のデータを公開した。その電子図書館は、パーソナルコンピュータ通信ネットワーク「NIFTY-Serve」の「歴史フォーラム」のデータライブラリである。

2-4. Directoryの編集・出版

【概要】 上記「国内外研究情報の収集」(2-2)において収集した学術情報をコンピュータ入力してデータベース化し、directoryとして編集する。収集データは、英文出版物及びコンピュータネットワークにより公開して、内外の研究者・研究機関に提供する。

【事業内容】

(1) 国内研究者名簿の作成

研究者名簿の収集・整理、研究者個人カードの作成、個人アンケート調査を通じて、各研究者の活動状況に関する情報を収集・更新した。データに基づき「日本におけるアジア諸言語・文学研究者名簿」を編集した。また、「日本におけるアジア歴史研究者名簿」の増補・改訂を行ない、1996年版として出版した。

“Directory of Asian Historical Studies in Japan, 1996” B 5判 (1,000部)。

(2) 海外研究機関一覧の編集

韓国、中国、台湾、インドネシア、タイ、インドに所在するアジア関係研究機関のリストの作成及び資料収集を行なった。

(3) 「日本におけるアジア研究機関一覧」の編集

国内研究機関のリストの作成及び資料収集を行なった。

2-5. 情報公開促進

【概要】 アジア・北アフリカ諸地域を対象とする人文・社会科学の最新の研究情報を迅速かつ正確に伝達するため、情報公開促進の基盤整備を行なう。

【事業内容】

(1) 国際交流基金アジアセンター・コンピュータネットワーク事業

国際交流基金アジアセンターの助成を受けて、文部省学術情報センターの情報検索サービス (NACSIS-IR) を通じて、文献検索等のデータベースをオンライン検索により提供すべく、コンピュータネットワークをメディアとする情報公開を企画・推進した。

3. 重要文献の保存・普及活動

— アジア重要文化財 (文献) の保存・普及 —

【概要】 アジア諸地域の文化・社会の理解に資する貴重な文献を、アジア重要文化財として保存し普及させるため、複製・翻訳等の方法によって紹介し、研究者の利用に供するとともに広く一般読者の理解を得る。

3-1. 「アジア重要文献覆刻叢書」の編集・出版

【概要】 アジア重要文化財として高い価値を有しながら、散逸の危険にさらされている文献や、入手のきわめて困難な文献について、それを写真版によって複製し、普及を図る。

【事業内容】

専門委員：佐藤次高、武田幸男、立川武蔵、御牧克己、湯山 明

委員会：12月25日 平成8年度以降の出版計画について検討した。

(1) 「十地経」の編集・出版

“Two Sanskrit Manuscripts of the Daśabhūmikasūtra Preserved at the National Archives, Kathmandu,” edited by Kazunobu Matsuda.

「アジア重要文献覆刻叢書」第10巻として、「十地経編集刊行委員会」（委員長：立川武蔵国立民族学博物館教授）の委託及び寄附金を受けて、同書の編集・出版を行なった。本書は、初期大乘仏教経典「十地経」（華嚴経十地品）のネパール国立古文書館所蔵写本2種を、英文解説を付して複製したものである。編者は、松田和信佛教大学総合研究所助教授である。A4判（1,000部）。

(2) 日本語解説の編集・出版

本シリーズ第9巻「デーヴィーマーハートミヤ絵画集」について、日本語解説の編集・出版を行なった。A4判（500部）。本書の出版に際し、有限会社多摩アセット（前掲）の援助を受けた。

(3) 出版物の増刷

本シリーズ第3巻「ヒンドゥー諸神図像集」及び第5巻「完成せるヨーガの環」をそれぞれ増刷した（各200部）。

3-2. アジア史料の保存・普及

【概要】 アジア諸地域の歴史と文化に関する基本的史料を収集・保存するとともに、広く普及を図る。

【事業内容】

(1) 「アジア史料叢刊」の編集・出版

同シリーズの一点として「十九世紀対外関係ベトナム史料」の編集を行なった。本書は、19世紀のタイ・ラオス外交に関するベトナム漢文史料『国朝處置萬象事宜録』鈔本2巻の本文を英訳し、解説と注釈とを付したものである。

(2) ユネスコ寄託マイクロフィルムの保存・普及

4. 研究普及活動

4-1. 研究成果の英文出版

【概要】 アジア諸地域の文化・社会に関する研究の成果を英文で出版し、関係の研究者に周知させる。

【事業内容】

(1) 「東南アジア史紀年総覧」の編集・出版

“The Thai Historical Record: A Computer Analysis,” by J. C. Eade.

同書の編集を行ない、「タイ史紀年総覧—コンピュータ解析による—」として出版した。本書はタイに伝存する刻文・年代記等の錯雑した紀年史料を集成し歴史的考察を加えたイード氏（オーストラリア）の研究書である。B5判変型（1,000部）。

(2) 「東南アジアのヒンドゥー・仏教建築」編集協力

同書の英訳出版（オランダ E. J. Brill 社刊行予定）に伴い、その編集に協力した。著者は千原大五郎氏である。

(3) 出版物の増刷

センターの既刊図書「タイにおける資本蓄積 1855年—1985年」（末廣昭著、1989年刊）、及び「タイ国舞台芸術史」（マッタニ・ラットニン著、1993年刊）をタイの出版社において再版（Trasvin Publications 社刊行予定）するため、その準備を行なった。

4-2. 語学講習会

【概要】 アジア諸言語の講習会を、初学者を対象として短期集中方式により実施し、学習の機会に乏しい言語の教育を行なうとともに、語学教授法の発達に寄与する。

【事業内容】

(1) 第35回語学講習会「ミャンマー語講習会—現代ビルマ語初級講座—」の開催

名古屋大学大学院国際開発研究科、及び同大学文学部、言語文化部の要請に応え、この三者との共催により下記のとおり実施した。名古屋大学大学院の履修単位に一部認定されるとともに、大学の社会人教育の一環として大学と地域社会との交流にも貢献した。

期 間：7月24日（月）—8月18日（金）10時30分—16時30分（土・日曜日を除く）

共 催：名古屋大学大学院国際開発研究科

名古屋大学文学部

名古屋大学言語文化部

会 場：名古屋大学大学院国際開発研究科会議室

講 師：原田正美 大阪外国語大学講師

ミン・ニョウ 名古屋大学大学院博士課程

修了者：9名

備 考：名古屋大学大学院国際開発研究科は、修了者のうち同大学院在籍者1名に
対し履修単位を認定した。

4-3. 普及活動

【概 要】 国内外の研究者・研究機関の活動を促進する情報を提供し、またセンター
を事務局とすることが効果的と認められる事業を企画・運営する。

【事業内容】

「センター出版物目録」"CEACS Publications Catalogue 1995" (英文) を刊行した
(1,200部)。

センター事業概要を含む「財団法人東洋文庫要覧」(和文) の刊行に伴い、その編集・
出版に参加した。

センター事業紹介リーフレット (和文・英文各1種) を刊行した (各1,500部)。コ
ンピュータネットワーク「インターネット」への東洋文庫ホームページ公開に備えて、
その作成に参加した。

センターの活動についての問 合せに応じ、また出版物の寄贈交換等を行なった。
下記の機関において出版物の展示・頒布を行なった。

東京国立博物館 (通年)

5. 業 務 報 告

A. 運営委員会・顧問会議

運 営 委 員 会

前 期 開 催 日 平成7年5月23日（火）13時30分－14時30分

場 所 東洋文庫3階会議室

出席委員 8名 委任状10名

報 告 1. 顧問の委嘱について
2. 参与の委嘱について
3. 運営委員の委嘱について
4. 所長の再任について

議 題 1. 平成6年度事業報告及び決算報告について
2. 平成7年度事業計画及び予算案について

後 期 開 催 日 平成7年11月28日（火）10時35分－12時

場 所 東洋文庫3階会議室

出席委員 7名 委任状10名

報 告 1. 顧問の委嘱について
2. その他

ユネスコ50周年記念式典における文部大臣表彰
役員の受章

議 題 1. 平成7年度事業中間報告及び収支状況報告について
2. 平成8年度事業計画案及び収支予算案について

顧 問 会 議

開 催 日 平成7年5月23日（火）13時30分－14時30分

場 所 東洋文庫3階会議室

出席顧問 1名 委任状3名

報 告 1. 顧問の委嘱について
2. 参与の委嘱について
3. 運営委員の委嘱について

議 題 1. 所長の推薦について
2. 平成6年度事業報告及び決算報告について
3. 平成7年度事業計画及び予算案について

B. 役員異動

年月日	役職名	氏 名	区分	現 職
7 年 4.10	運営委員	宮地 正人	就任	東京大学史料編さん所長
6.30	顧 問	岡村 豊	退任	文部省学術国際局長
7. 1	顧 問	林田 英樹	就任	文部省学術国際局長
7. 1	顧 問	前田 充明	再任	財団法人国際学友会理事
7. 1	運営委員	池端 雪浦	再任	東京外国語大学アジア・アフリカ 言語文化研究所教授・所長
7. 1	運営委員	辛島 昇	再任	東京大学教授
7. 1	運営委員	佐々木高明	再任	国立民族学博物館教授・館長
7. 1	運営委員	佐藤 次高	再任	東京大学教授
7. 1	運営委員	斯波 義信	再任	国際基督教大学教授
7. 1	運営委員	竺沙 雅章	再任	大谷大学教授
7. 1	運営委員	戸川 芳郎	再任	二松学舎大学大学院教授
7. 1	運営委員	中根 千枝	再任	日本学士院会員
7. 1	運営委員	山崎 元一	再任	國學院大学教授
7. 1	参 与	田村 實造	再任	京都大学名誉教授
7. 1	参 与	丸山 眞男	再任	日本学士院会員
8. 9	顧 問	西島 安則	退任	日本ユネスコ国内委員会会長
8.10	顧 問	中根 千枝	就任	日本ユネスコ国内委員会会長
8 年 1. 9	運営委員	長谷川正明	退任	文部省大臣官房審議官
1.20	運営委員	中西 釦治	就任	文部省大臣官房審議官
3.31	運営委員	後藤 明	退任	東京大学東洋文化研究所長

C. 受 章

年月日	役職名	氏 名	区分	備 考
7年 11.3	所 長	石井 米雄	受 章	紫綬褒章

D. 会計報告

平成7年度 ユネスコ東アジア文化研究センター収支決算書

(平成8年3月31日現在)

支 出 の 部		収 入 の 部	
科 目	金額 (千円)	科 目	金額 (千円)
事 業 費	31,876	国庫補助金	79,500
ユネスコ協力活動費	519	財 産 収 入	3
学術情報活動費	14,199	雑 収 入	4,538
重要文献の保存・普及活動費	4,876	その他の収入	4,008
研究普及活動費	8,274		
情報公開促進費	4,008		
経 常 費	56,173		
人 件 費	55,457		
事 務 費	716		
計	88,049	計	88,049

6. 役職員名簿

平成8年3月31日現在の役職員は下記のとおりである。

[注] Eはex officio (官職指定)。

A. 役員

役職名	氏名		現職
所長	石井米雄		上智大学アジア文化研究所教授，京都大学名誉教授，財団法人東洋文庫理事
顧問	浅尾新一郎	E	国際交流基金理事長
	岡野澄		東京工業高等専門学校名誉教授，財団法人東洋文庫評議員
	中根千枝	E	日本ユネスコ国内委員会会長
	林田英樹	E	文部省学術国際局長
	前田充明		財団法人国際学友会理事，城西大学名誉教授，財団法人東洋文庫評議員
	山本達郎		日本学士院会員，東京大学名誉教授，財団法人東洋文庫理事
参与	織田武雄		京都大学名誉教授
	田村實造		京都大学名誉教授
	中村元		日本学士院会員，東京大学名誉教授，東方学院院长
	長尾雅人		日本学士院会員，京都大学名誉教授
	丸山眞男		日本学士院会員，東京大学名誉教授

役 職 名	氏 名		現 職
運営委員	池 端 雪 浦		東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授・所長
	太 田 博	E	国際交流基金専務理事
	辛 島 昇		大正大学文学部教授，東京大学名誉教授
	河 野 靖		上智大学アジア文化研究所客員研究員
	後 藤 明	E	東京大学東洋文化研究所長
	阪 上 孝	E	京都大学人文科学研究所長
	佐々木 高明		国立民族学博物館教授・館長
	佐 藤 次 高		東京大学大学院人文社会系研究科教授，財団法人東洋文庫理事
	斯 波 義 信		国際基督教大学教養学部教授，財団法人東洋文庫理事
	竺 沙 雅 章		大谷大学文学部教授，京都大学名誉教授
	坪 内 良 博	E	京都大学東南アジア研究センター所長
	戸 川 芳 郎		二松学舎大学大学院文学研究科教授，東京大学名誉教授
	中 西 釦 治	E	文部省大臣官房審議官
	中 根 千 枝		財団法人民族学振興会理事長，東京大学名誉教授，財団法人東洋文庫理事
	藤 井 和 夫		実践女子大学講師
	三 角 哲 生	E	財団法人ユネスコ・アジア文化センター理事長
	宮 地 正 人	E	東京大学史料編さん所長
	望 月 敏 夫	E	文部省大臣官房審議官
	山 崎 元 一		國學院大学文学部教授
	山 田 勝 久	E	アジア経済研究所長

B. 職 員

室 名	職 名	氏 名
調査外事室	室 長 研 究 員	大 井 剛 近 藤 敦 子
普 及 室	室 長 研 究 員 参 事	外 池 明 江 設 楽 靖 子 坂 本 葉 子
庶務会計室	室 長 参 事	飯 田 隆 子 小 林 和 弘
外 国 人	専 門 員	John Wisnom

C. 臨時職員

平成7年4月1日から平成8年3月31日までの間に在籍した臨時職員は下記の通りである。

秋葉 淳、尾沼君江、可児やすよ、斎藤久美子、篠崎陽子、島田志津夫、島谷泰子、西田暢子、前嶋敦子、森島 聡、渡部良子。

財団
法人 東洋文庫年報 平成7年度

平成9年3月25日 発行

発行者 東京都文京区本駒込2丁目28番21号

財団法人 東洋文庫

北 村 甫

印刷者 (株) デ イ グ

発行所 東京都文京区本駒込2丁目28番21号

財団法人 東洋文庫

